

矢板市

防災 ハザード マップ



大切な命を守るために
防災の再確認

もくじ・ハザードマップの活用方法	1	地震対策	45
5段階の警戒レベルと防災情報	2	揺れやすさマップ	46
避難所一覧	3	大雪・竜巻対策	47
ハザードマップの見かた	4	火災対策	48
全体図	5・6	家の中外の安全対策	49
詳細図1～17	7～40	非常時持出品・備蓄品の準備	50
風水害対策	41・42	わが家の「防災・緊急情報」メモ	裏表紙
土砂災害について	43・44		

「本書の特徴」

本書は、いつ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、常日頃から内容に目を通し理解を深めていきましょう。また、本書の特徴として、災害時に持ち運びができるように冊子型として作成しました。通常時は地図部分やわが家の「防災・緊急情報」メモページを開いた状態で、壁などにピン留めして掲示するか、ヒモなどでつるし身近に置き、緊急時に持ち出してご活用ください。

ハザードマップの活用方法について

①地図上で住んでいる場所と予想される浸水の深さを確認しましょう

このハザードマップには、予想される浸水の範囲と深さがランク別に色分けされています。自分の住んでいる場所は浸水の危険があるのか、予想される浸水の深さはどれくらいになるのかを確認しましょう。
ただし、浸水の予想は、この通りにはならないことがあります。

②避難場所を確認しましょう

3ページの避難所一覧で、自分の住んでいる地区で指定されてる避難場所がどこにあるかを確認しましょう。そして、地図上でその避難場所がどこにあるのか、場所の確認をしましょう。

③避難経路を考えてみましょう

ハザードマップで自分が住んでいる場所から避難場所まで、どの道を通れば良いか、避難経路を地図上で確認しましょう。地図上での確認が済んだら、実際に避難場所まで歩いてみましょう。
安全で歩きやすい道を選び、避難場所までの経路を確認して、所要時間も計ってみましょう。実際に避難するときは、夜間・大雨・大人数での移動が考えられるため、所要時間は平常時の倍以上かかる可能性があります。

④家族や周辺住民と情報を共有しましょう

ハザードマップは家族と一緒に確認しましょう。地震、台風や大雨により、避難が必要になったときは、周辺住民、親戚、知り合いなどにこれから避難することと避難先を伝え、どここの施設に避難しているのか分かるようにしておきましょう。
安否確認には、災害用伝言ダイヤル(171)の利用も有効です。



矢板市メール配信サービスをご利用ください

矢板市メール配信サービスは、登録された方の携帯電話・パソコンに防災・行政情報等をお伝えするメール配信サービスです。

【配信する情報】

- (1) 地震、大雨、洪水、土砂災害、竜巻などの気象情報や警報
- (2) 避難勧告や避難指示などの避難情報
- (3) ゲリラ・特殊部隊攻撃、航空攻撃、弾道ミサイル、大規模テロなどの国民保護情報
- (4) 新着情報、イベント情報（受信要否を各自で選択）を受信することができます。

【登録方法】

携帯電話 regist@mobile.city.yaita.tochigi.jp に何も書かずにメールを送信してください。
その後送られてくるメールの本文に書かれているアドレスに接続して登録を行ってください。

パソコン <http://mobile.city.yaita.tochigi.jp/> を直接入力し案内に沿って登録ください。

防災行政無線で放送した内容の確認方法

緊急・災害情報、行政に関する情報などを市内101箇所に設置した屋外スピーカーからお知らせします。情報を市内一斉にお知らせするほか、特定の地域のみにお知らせすることも可能です。また、緊急時に一般電話が不通になったときや停電した場合に、市役所と無線で情報のやり取りを行うことができます。

インターネットで情報確認

栃木県リアルタイム雨量 河川水位観測情報

<http://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/main.asp?screen=river>



テレビで情報確認

テレビのdボタンの使い方

- NHK** ①リモコンのdボタンを押す
②「防災・生活情報」を選択する
- とちテレ** ①リモコンのdボタンを押す
②「防犯・防災情報」を選択する



水位が確認
できます。

5段階の警戒レベルと防災情報

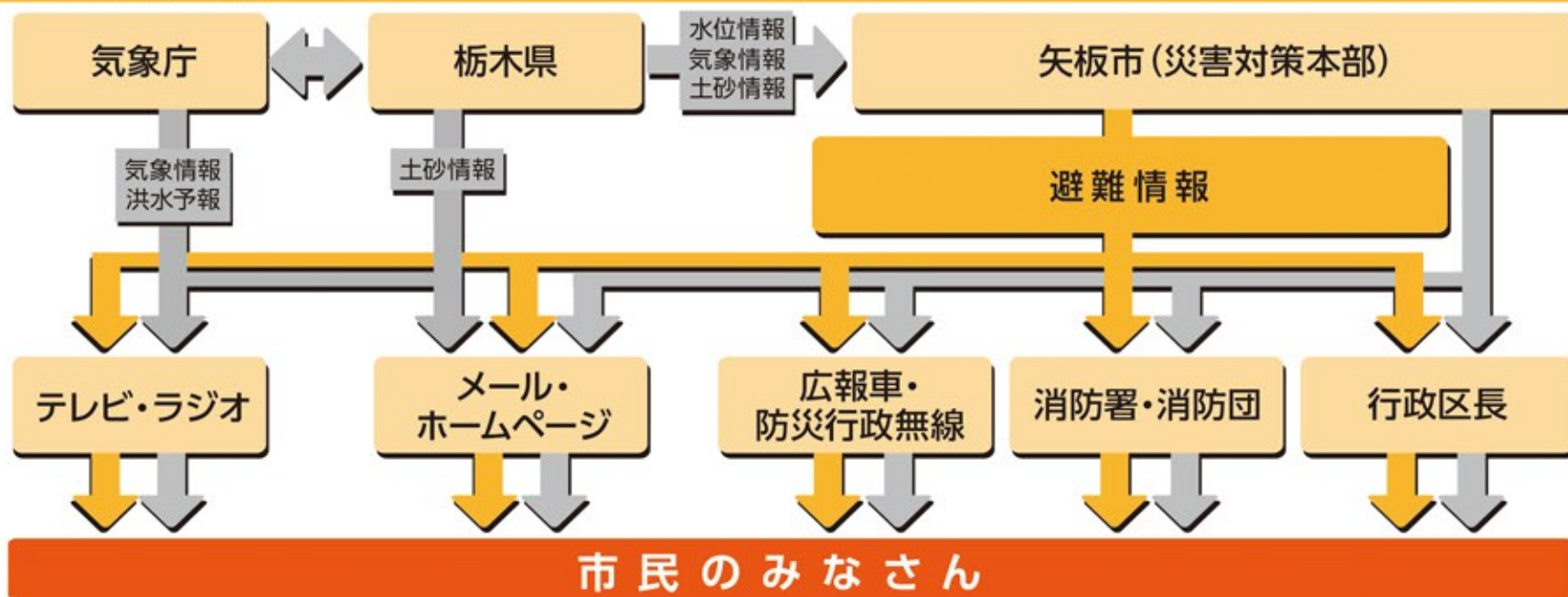
発令情報	警戒レベル 1 早期注意情報 (気象庁)	警戒レベル 2 注意報(気象庁)	警戒レベル 3 避難準備・高齢者 等避難開始	警戒レベル 4 避難勧告 避難指示(緊急)	警戒レベル 5 災害の発生
発令状況	5日先までに 警報級の現象が予想される 状況です。	注意報が発表 されている状況 です。	警報などが発表され、被害が発生する危険度が高まった状況です。	土砂災害警戒情報などが発表され、被害が発生する危険度が非常に高い、あるいは被害が発生し始めた状況です。	災害が発生した状況です。
住民の皆さんの取るべき行動	最新の 気象情報 などに注意 	避難場所や 経路を再確認 	高齢者等は 避難 	全員速やかに避難 	命を守る 最善の行動 

警戒レベル

高

※ 必ずこの順番で発令されるとは限らないので注意してください。 ※ これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を始めてください。

地域の防災



情報を集めましょう

テレビで情報確認

テレビのdボタンの使い方



災害情報が
確認できます

- ① リモコンのdボタンを押す
- ② 「防災・生活情報」を選択する

矢板市メール配信サービス

災害時に矢板市から
避難情報等を配信します

登録方法

2次元コードを読み取り、
空メール[regist@mobile.city.yaita.
tochigi.jp]を送信



インターネットで調べる

気象庁

気象注意報・警報・特別
警報、短時間大雨予報、
洪水警報の危険度分布、
台風情報、地
震情報など



気象庁 注意報 検索

川の防災情報

カメラ画像、河川の
観測水位、水位予測
など



川の防災 検索

防災情報提供 センター

リアルタイム雨
量、リアルタイム
レーダーなど



防災情報提供 検索

避難所一覧

指定緊急避難場所

番号	名 称	地区	所在地	電話番号	地図座標
①	矢板小学校	矢板市街地	本町4-23	43-0043	12-E-1
②	東小学校		東町616	44-2515	12-F-2
③	矢板中学校		上町20-7	43-0144	9-E-4
④	矢板東高校		東町4-8	43-1243	12-F-2
⑤	矢板中央高校		扇町2-1519	43-0447	9-E-4
⑥	生涯学習館		矢板106-2	43-6218	12-D-2
⑦	矢板公民館		矢板103-1	43-0469	12-D-1
⑧	きずな館		扇町2-4-19	44-3000	9-E-4
⑨	市武道館		本町2-22	44-1808	12-E-1
⑩	安沢小学校	片岡	安沢1482	48-1005	13-B-4
⑪	片岡小学校		片岡2095	48-0510	15-A-4
⑫	乙畑小学校		乙畑1902	48-0610	17-B-3
⑬	片岡中学校		片岡2139	48-0410	15-A-4
⑭	矢板市コミュニティホール		片岡2098-3	48-0101	15-A-4
⑮	矢板市農業者トレーニングセンター		片岡1143-1	48-0680	15-A-3
⑯	川崎小学校	西部・南部	木幡1646	43-0265	12-E-4
⑰	城の湯ふれあい館		幸岡18	43-2115	12-D-3
⑱	豊田小学校	東部	豊田802	43-0332	13-D-1
⑲	日新体育館		土屋635	-	10-A-2
⑳	農村環境改善センター		沢783	43-4675	10-B-3
㉑	泉小学校	泉	泉378	43-0404	9-C-1
㉒	長井体育館		長井1248	-	9-A-3
㉓	上伊佐野体育館		上伊佐野761	-	5-C-4
㉔	泉中学校		泉526	43-0407	7-C-4
㉕	泉はつらつ館		泉396-1	43-2231	7-C-4

関連機関

名 称	所在地	電話番号	地図座標
矢板市役所	本町5-4	43-1111	12-E-1
矢板消防署	富田94-1	44-2511	12-E-3
矢板警察署	中2001-1	43-0110	12-F-1
矢板駅前交番	扇町1-1-48	44-0780	12-F-1
片岡駐在所	片岡2096-22	48-0110	15-A-4
乙畑駐在所	乙畑1492-9	48-1535	17-B-2
泉駐在所	田野原394-1	43-2144	7-C-4
沢駐在所	沢589-2	44-0781	10-C-4

洪水浸水想定区域について

- この洪水浸水想定区域図は、箒川・内川・鬼怒川の洪水予報区間について、水防法の規定等により定められた想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示したものです。
- この洪水浸水想定区域図は、現時点の箒川・内川・鬼怒川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定最大規模降雨に伴う洪水により箒川・内川・鬼怒川が氾濫した場合の浸水の状況をシュミレーションにより予測したものです。
- このシュミレーションの実施にあたっては、**支川の決壊によるはん濫、想定を超える降雨、内水によるはん濫等を考慮していません**ので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。
- なお、この洪水浸水想定区域図は、箒川・内川・鬼怒川のはん濫により生じる洪水浸水想定区域と想定される水深等を示した図であるため、隣接する河川の氾濫の影響が考えられる区域では、別途、当該河川の洪水浸水想定区域図を参照する必要があります。

浸水ランクの目安

水防法改正後（平成29年6月）の浸水深ランクの目安をお知らせします。ただし、建物や土地の状況により浸水による被害は異なります。

家屋イメージ	浸水深と目安		浸水前の行動指針	浸水後の行動指針
	20m	10 ～ 20m	5 ～ 7 階が浸水する程度	◎立ち退き避難
	10m	5 ～ 10m	3 階の全てが浸水する程度	3.0m 以上の浸水想定エリアの場合、家屋の2階以上も浸水することが想定されますので、浸水前段階を含め、早めの避難を心がけてください。
	5m	3 ～ 5m	2 階の全てが浸水する程度	◎立ち退き避難△自宅待機(垂直避難)
	3m	0.5 ～ 3m	1 階の全てが浸水する程度	△自宅待機(垂直避難)
	0.5m	～ 0.5m	大人の膝まで浸水する程度	◎立ち退き避難○自宅待機(垂直避難)
			自宅待機(垂直避難)の場合、浸水が長時間に及ぶ場合も想定されますので、日頃から十分な備えを心がけてください。	
			浸水が浅い場合でも、浸水後の避難は危険です。日頃から十分な備えを心がけてください。	

※地図上で着色のない区域でも河川や水路の近くなどにお住まいの方は、日頃より浸水があった場合を想定し、自ら対応や備えをしておきましょう。

その他の掲載情報について

宮川・荒川について

- ダムの下流域にあたる、宮川・荒川については、異常洪水時防災操作により放流がおこなわれた場合の浸水想定図です。

土砂災害(特別)警戒区域

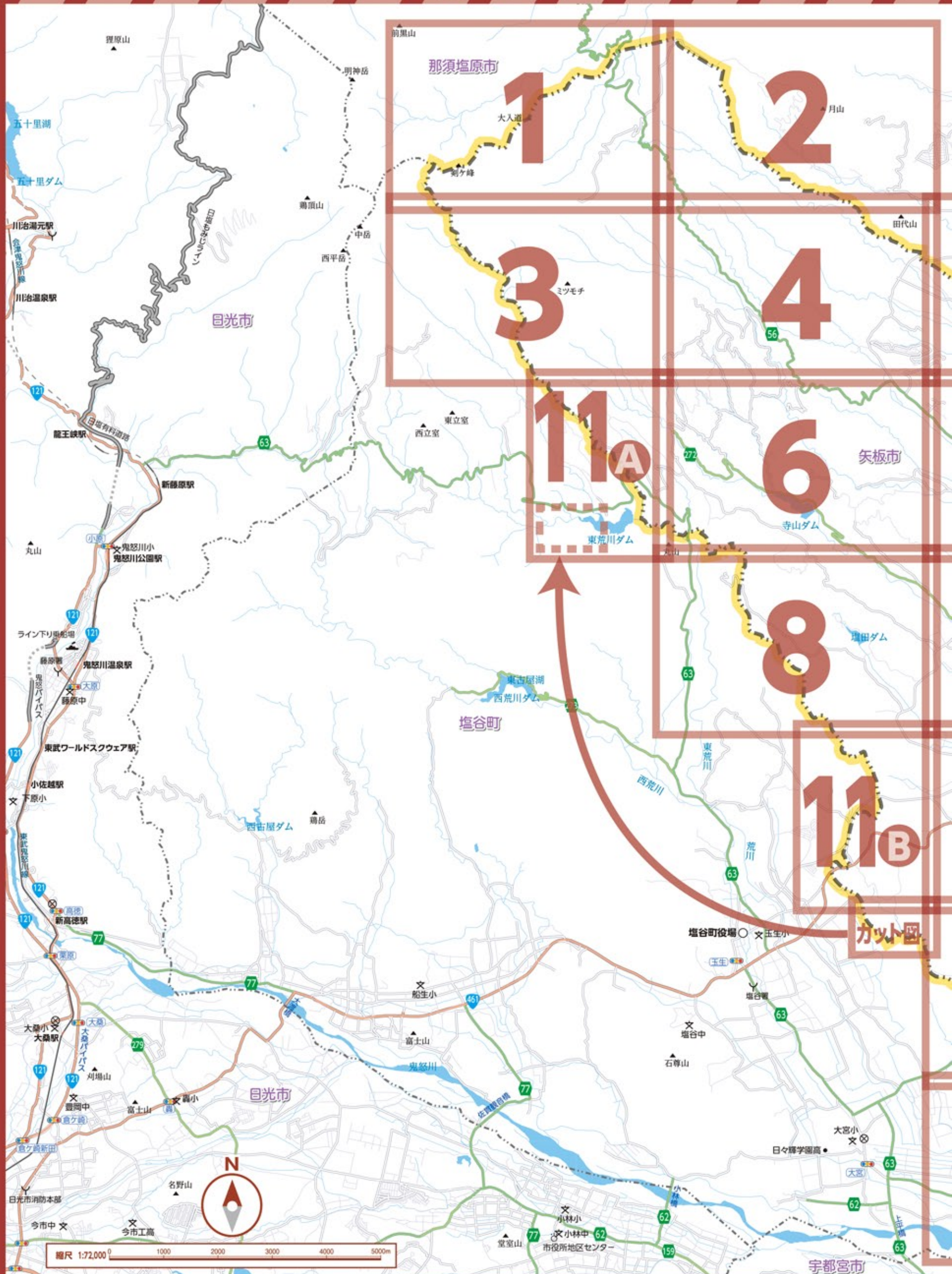
- 土砂災害(特別)警戒区域は、栃木県と国(国土交通省)で調査したデータ(急傾斜地・土石流)を基に掲載しています。
- 土砂災害(特別)警戒区域は、現地調査等により把握されたものです。地図に表示されている箇所以外でも土砂災害が発生する可能性があります。

避難所・避難場所

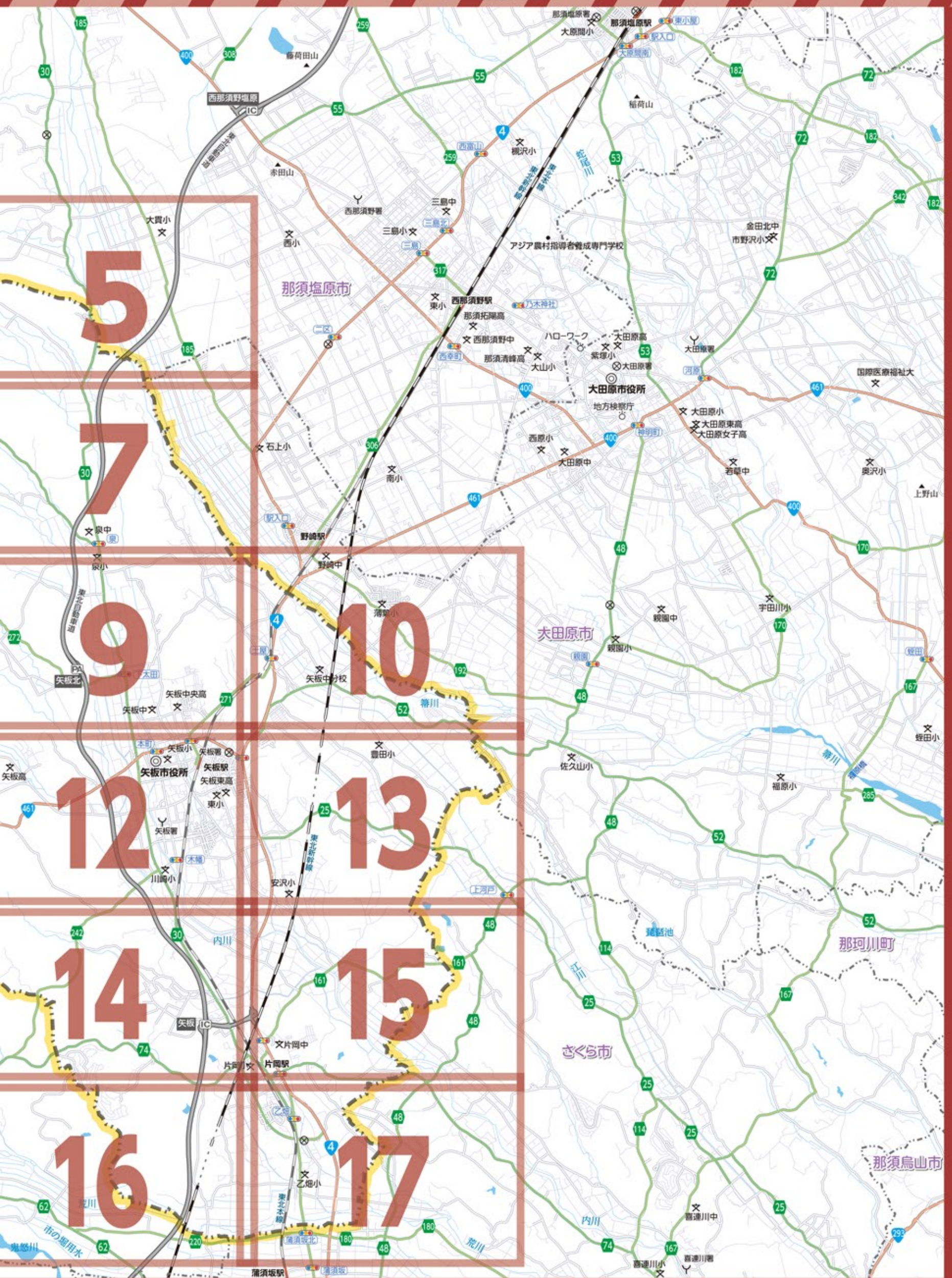
- 災害が発生した場合、又は発生する恐れがある場合に避難する場所です。
- このハザードマップにより、洪水・地震・その他の災害等における自宅周辺・勤務地の避難所・場所の確認等をしてください。
- 施設・場所によっては浸水が想定される地域内にあるものがあります。避難に際しては状況を確認し避難してください。



全体図



全体図



凡 例

地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定避難所		警察署・交番・駐在所
	主要地方道・県道		郵便局
	国道		医療機関
	高速道路		駅
	市役所		信号・交差点名称
	消防署・消防団		公民館

洪水浸水想定区域 浸水した場合に想定される水深

	0～0.5m 未満
	0.5～3.0m 未満
	3.0～5.0m 未満
	5.0～10.0m 未満
	家屋倒壊等氾濫想定区域

ダム下流河川の浸水想定

浸水した場合に想定される水深

	0～0.5m 未満
	0.5～3.0m 未満
	3.0～5.0m 未満
	5.0～10.0m 未満
	家屋倒壊等氾濫想定区域

土砂災害警戒区域等

	土砂災害警戒区域
	土砂災害特別警戒区域

0 250 500m
縮尺：1/10,000



那須塩原市

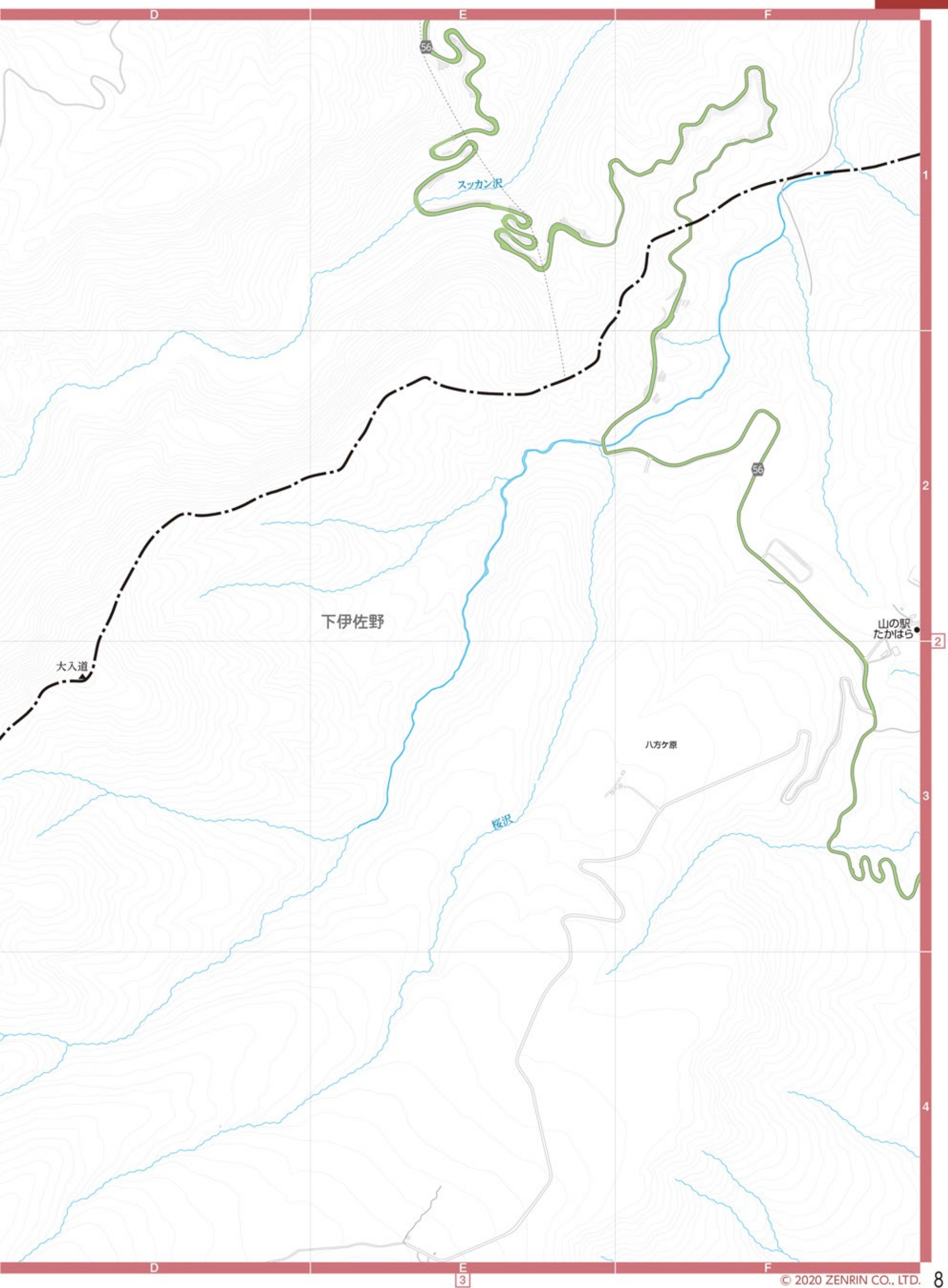
塩谷町

長井

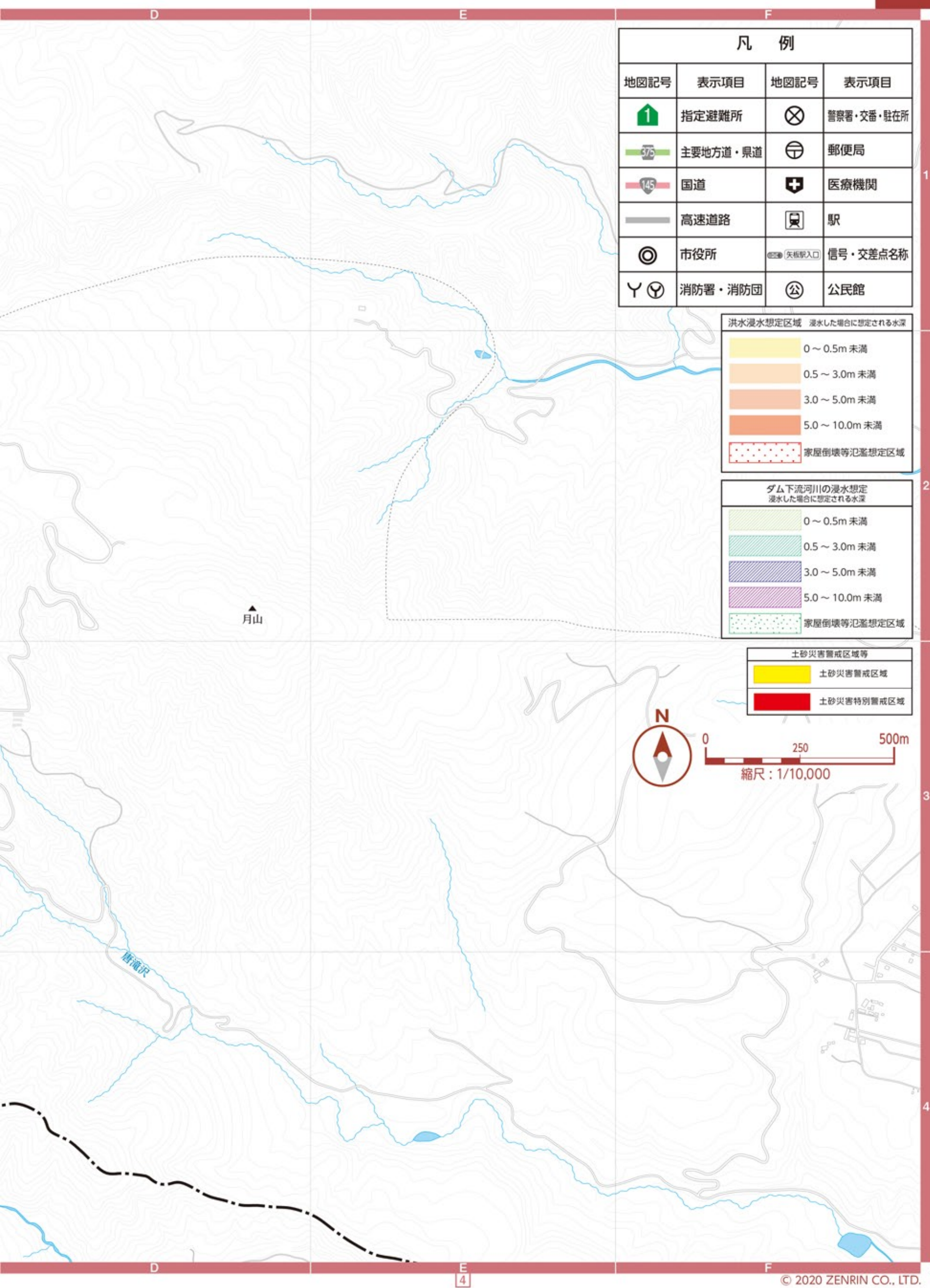
矢板市

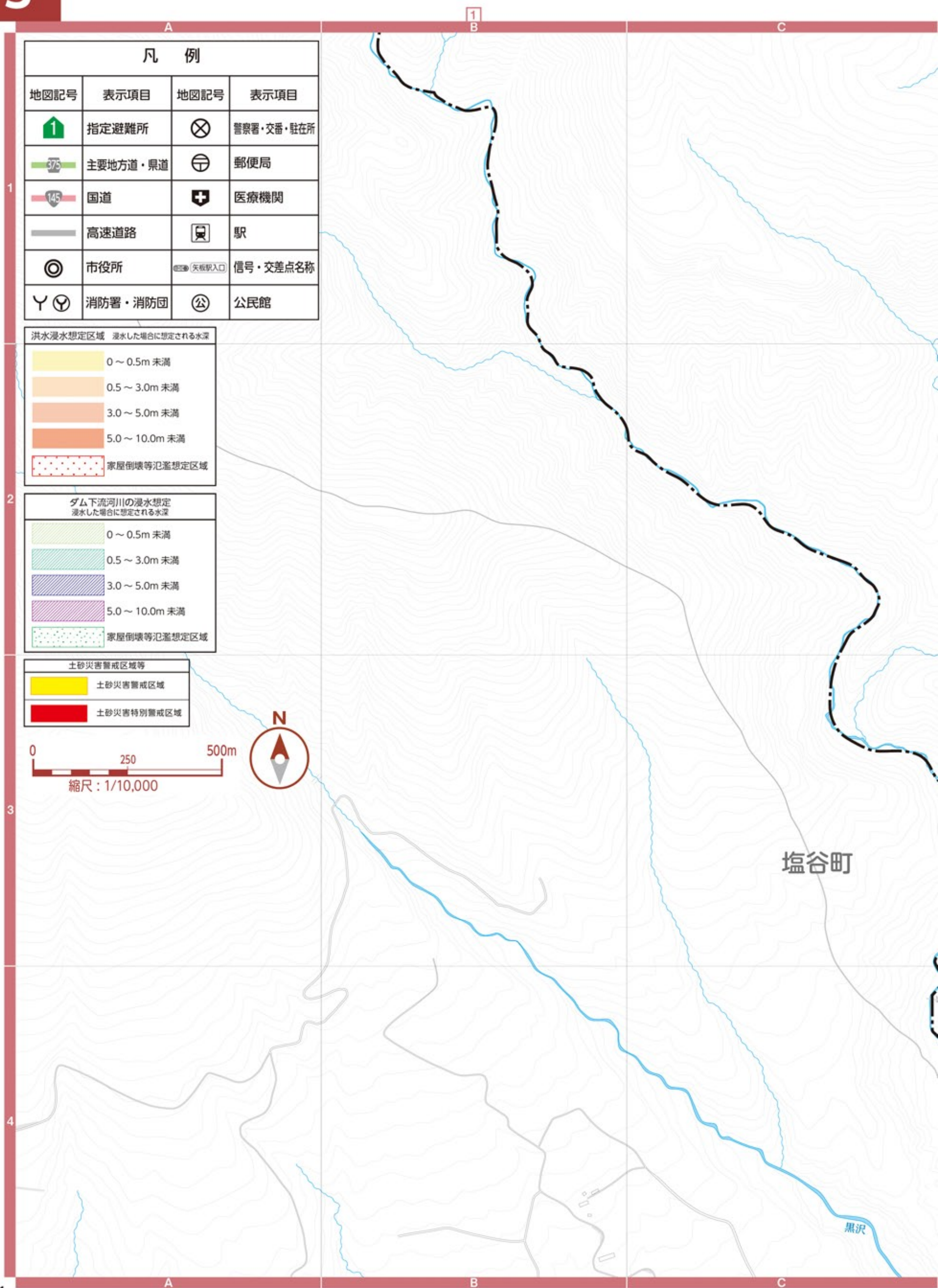
剣ヶ峰

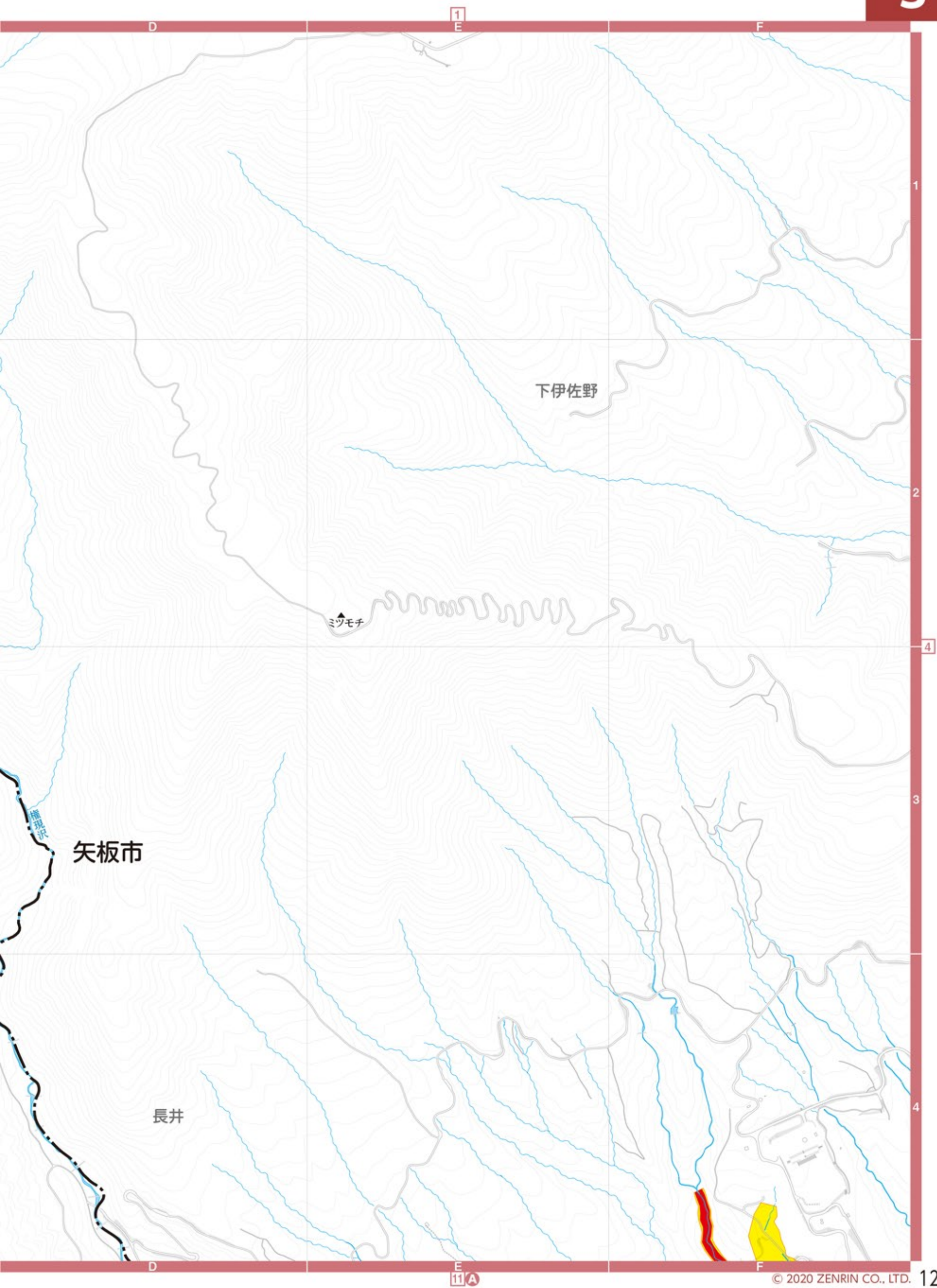
八海山神社

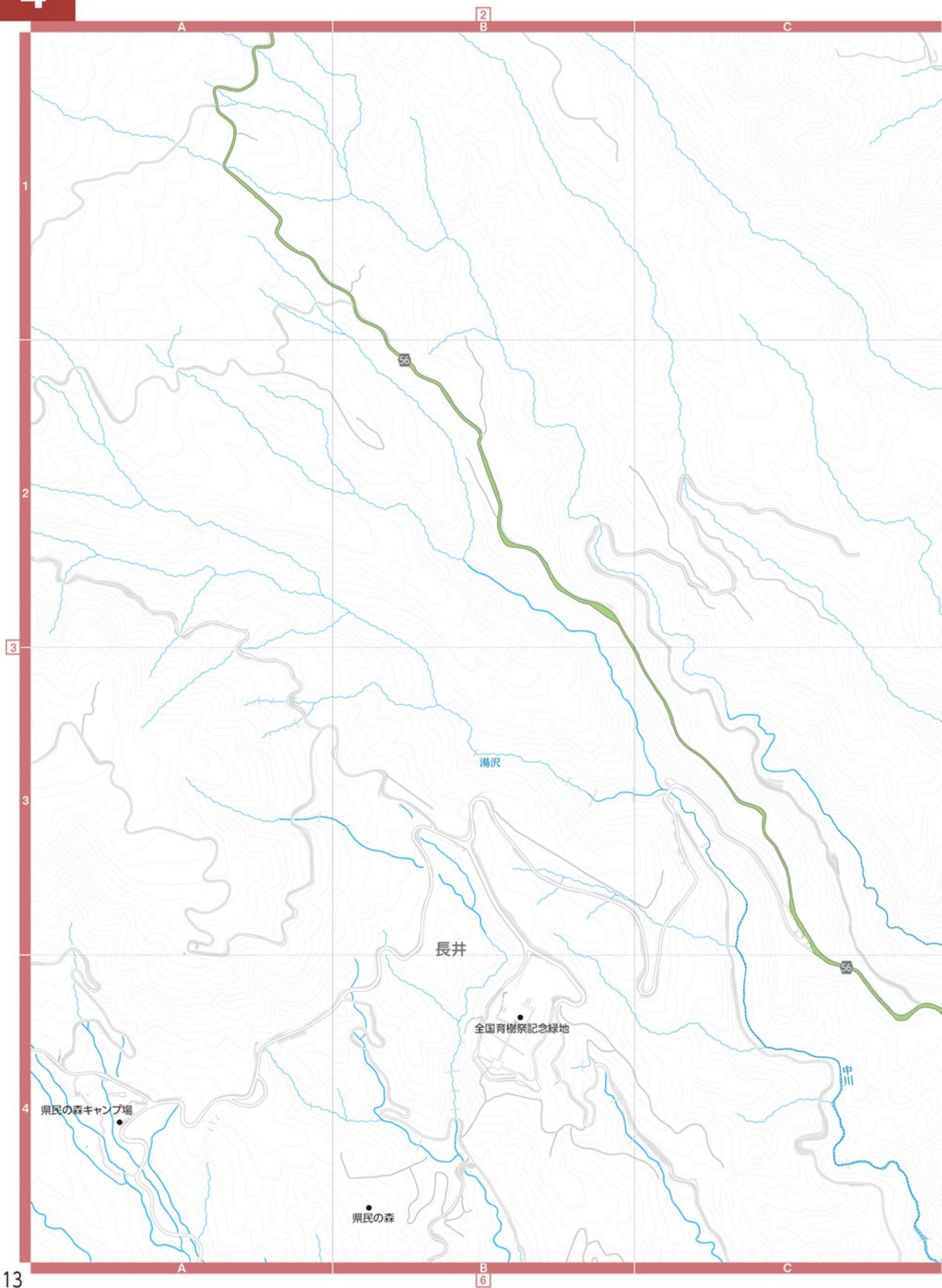


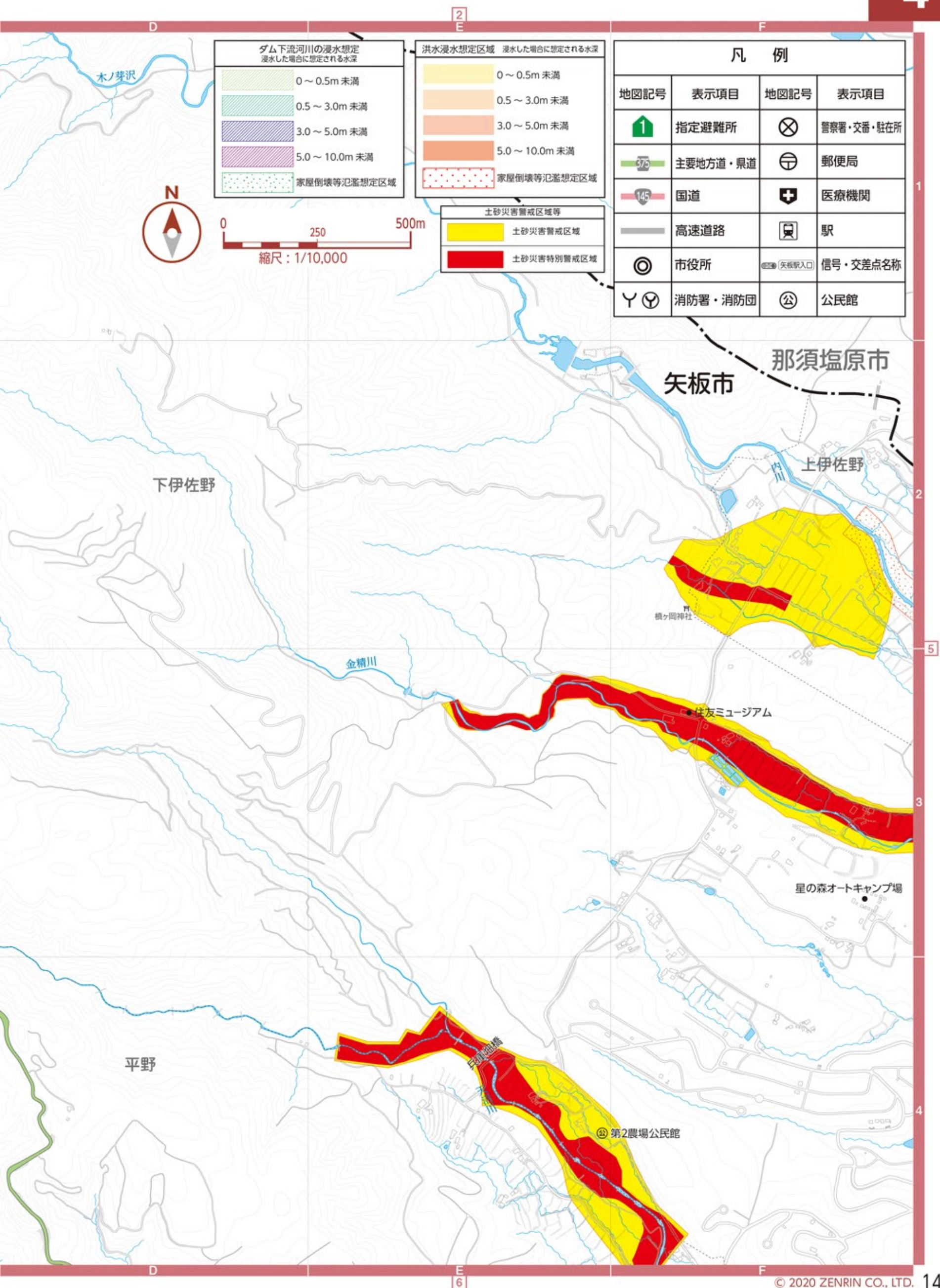


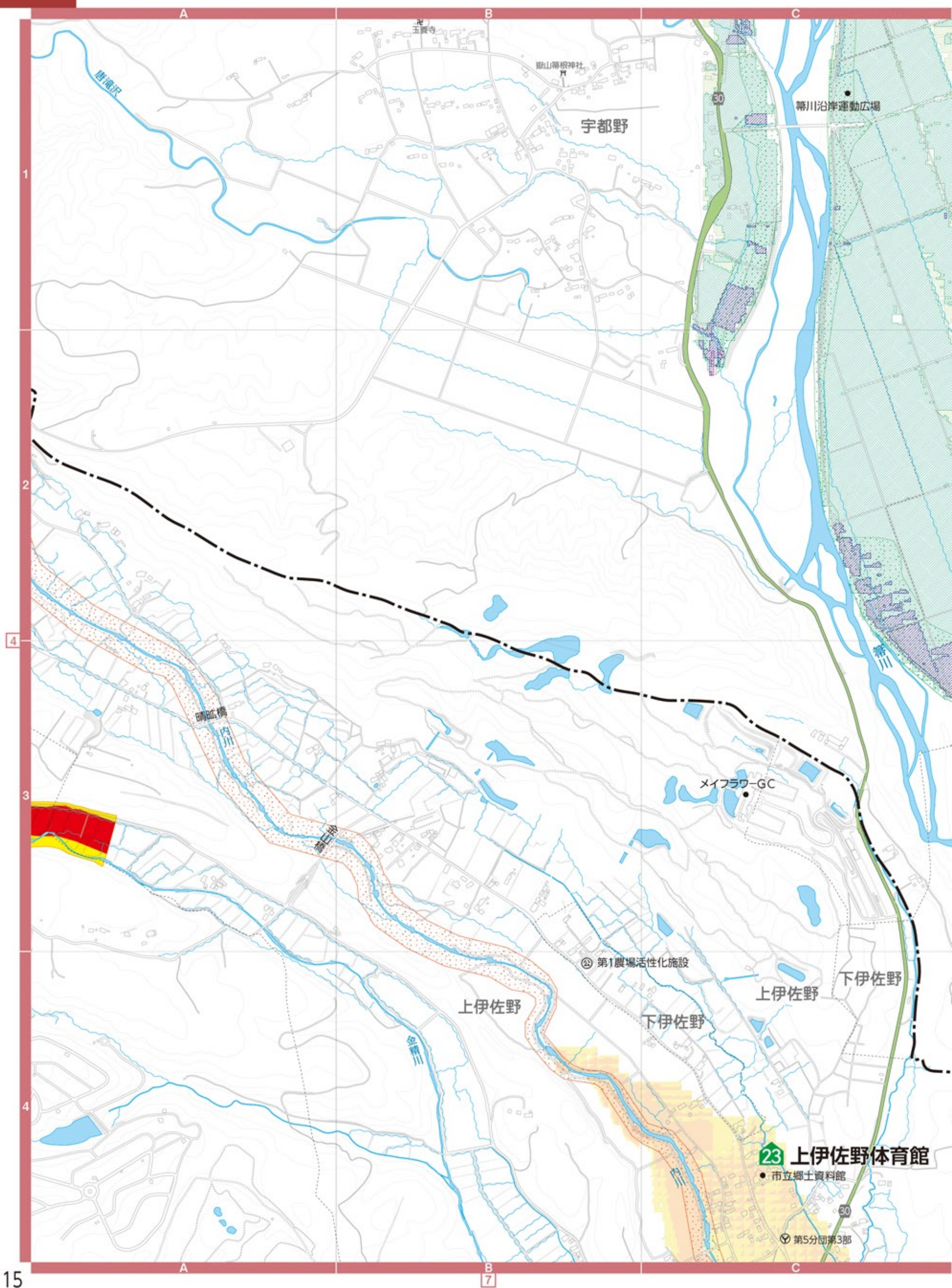


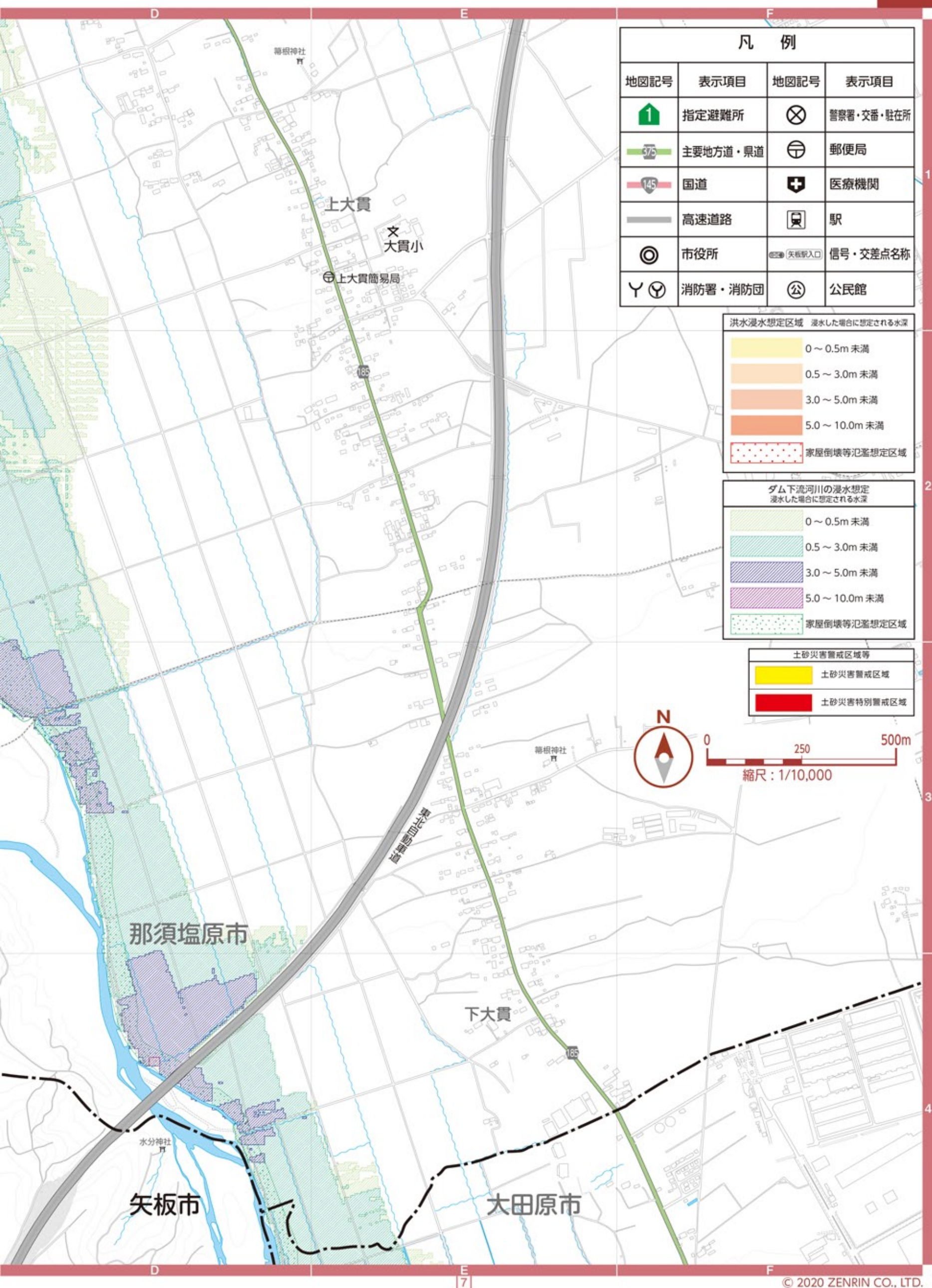


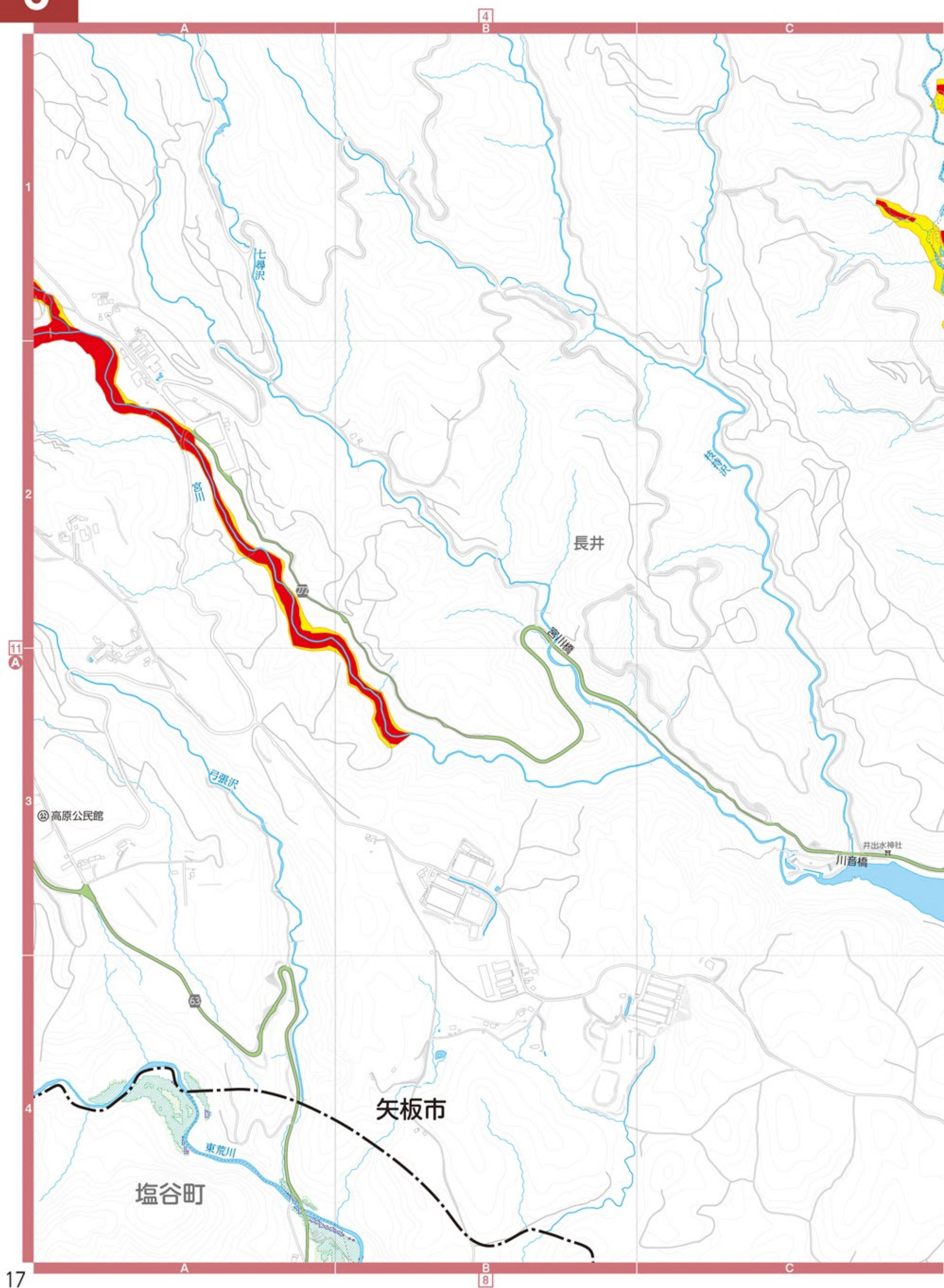


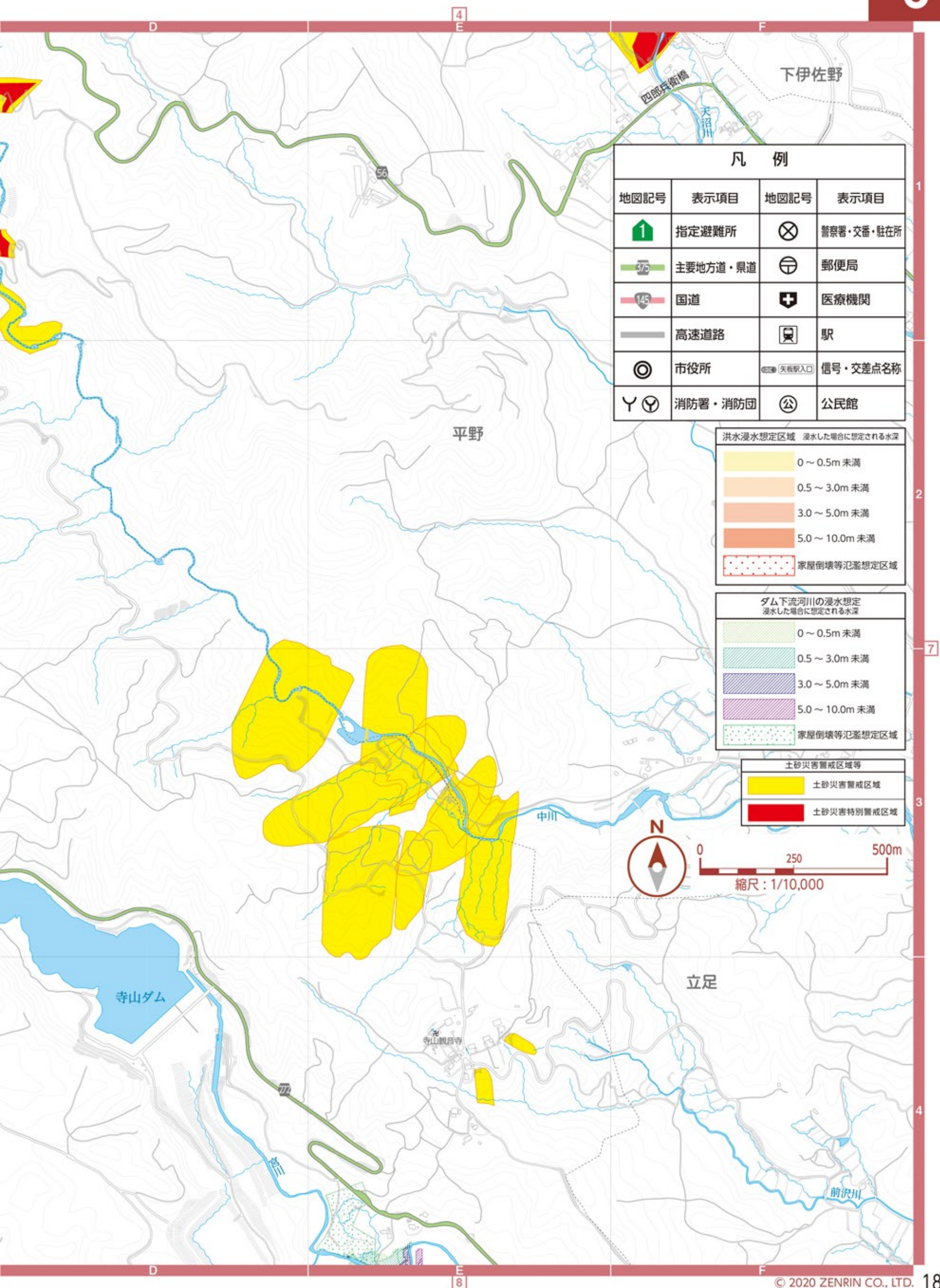


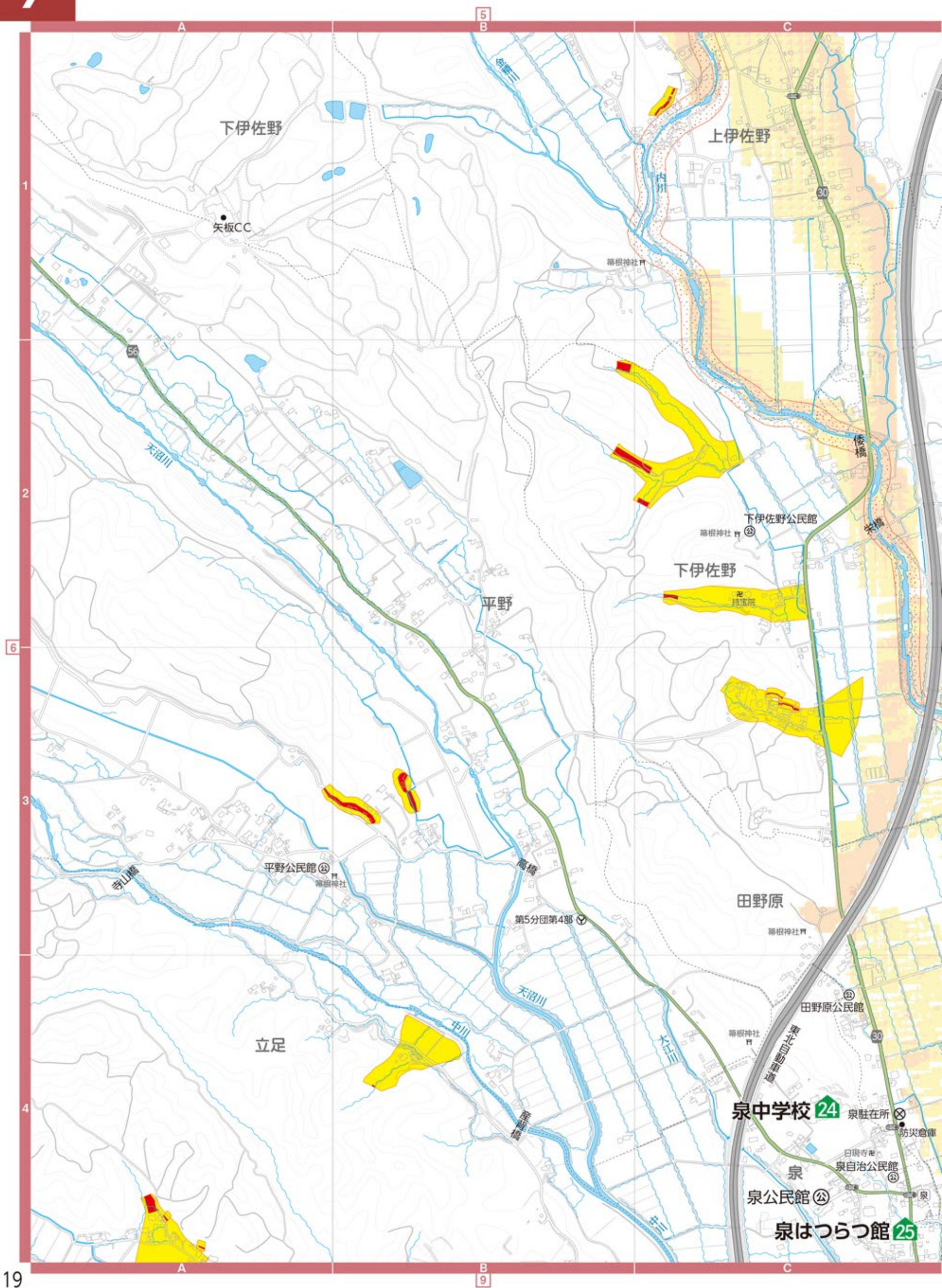


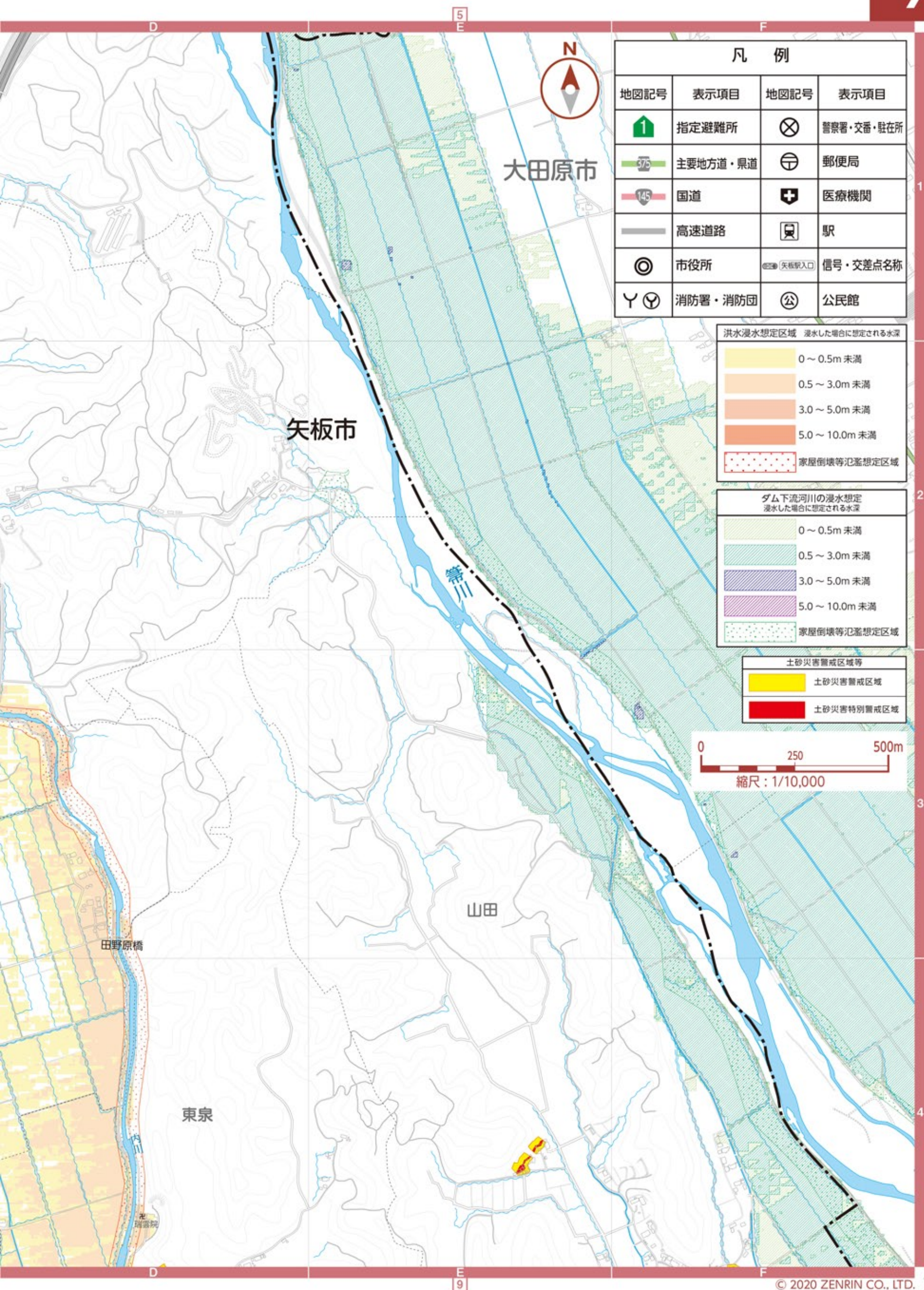


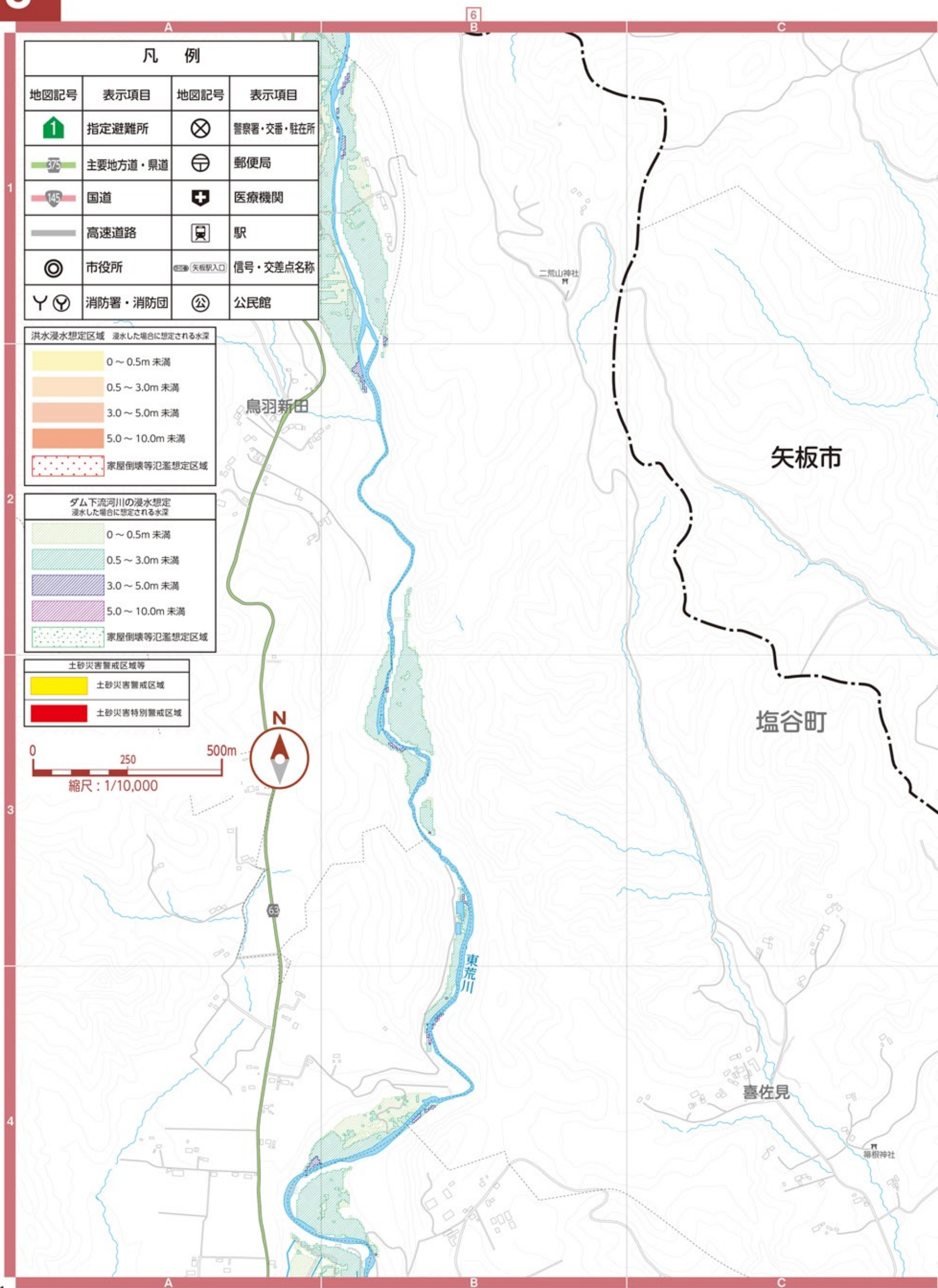


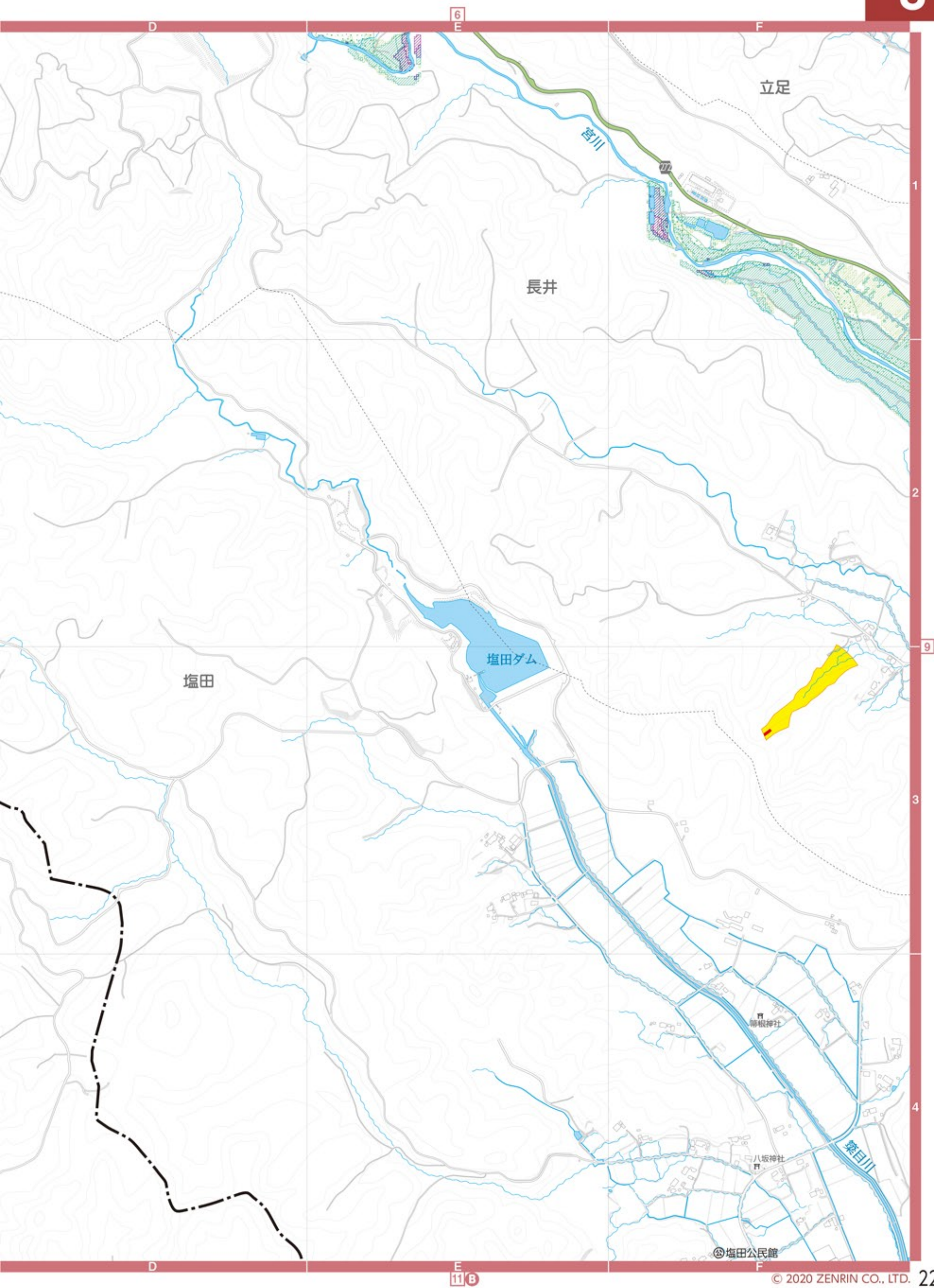




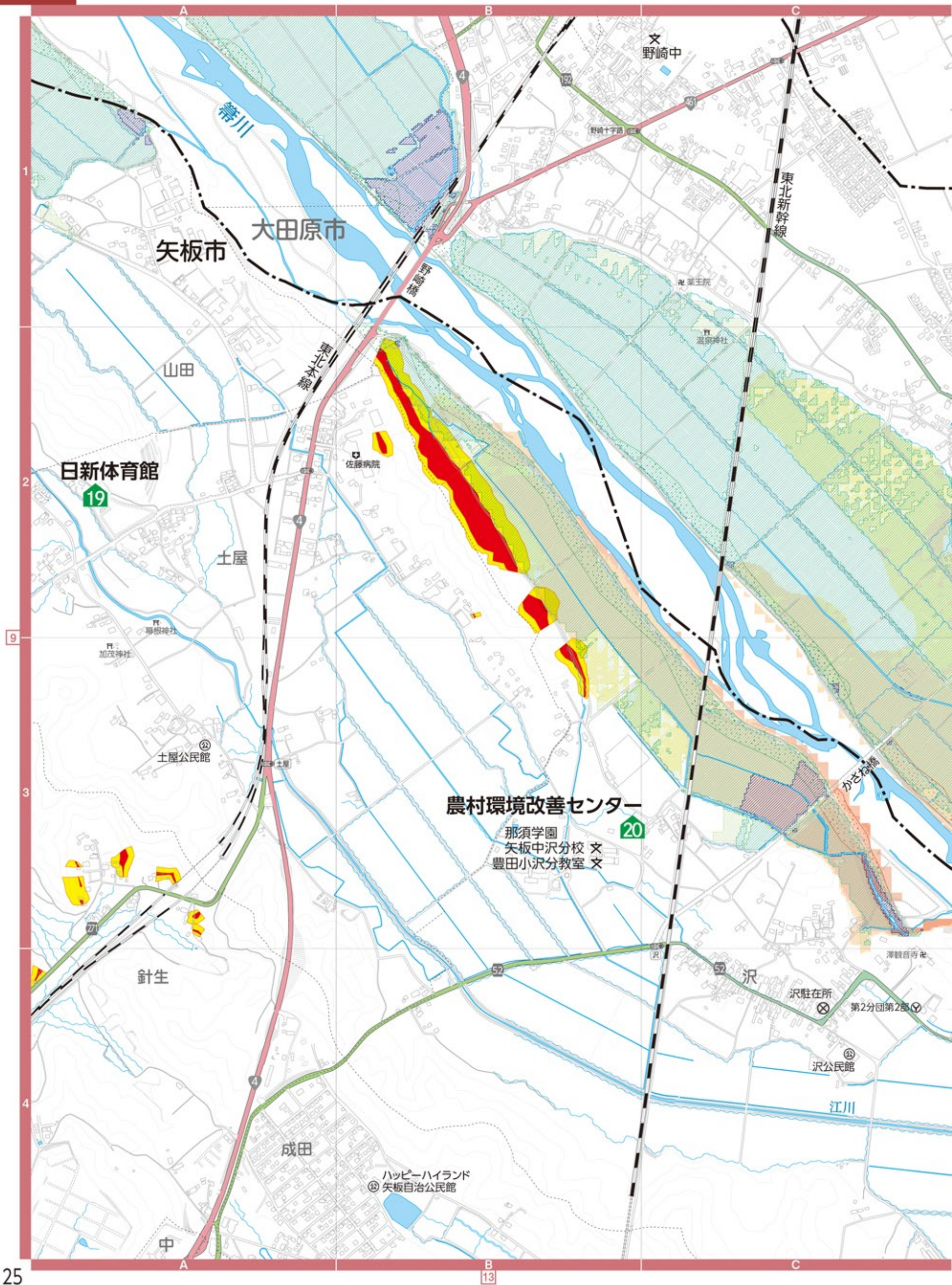


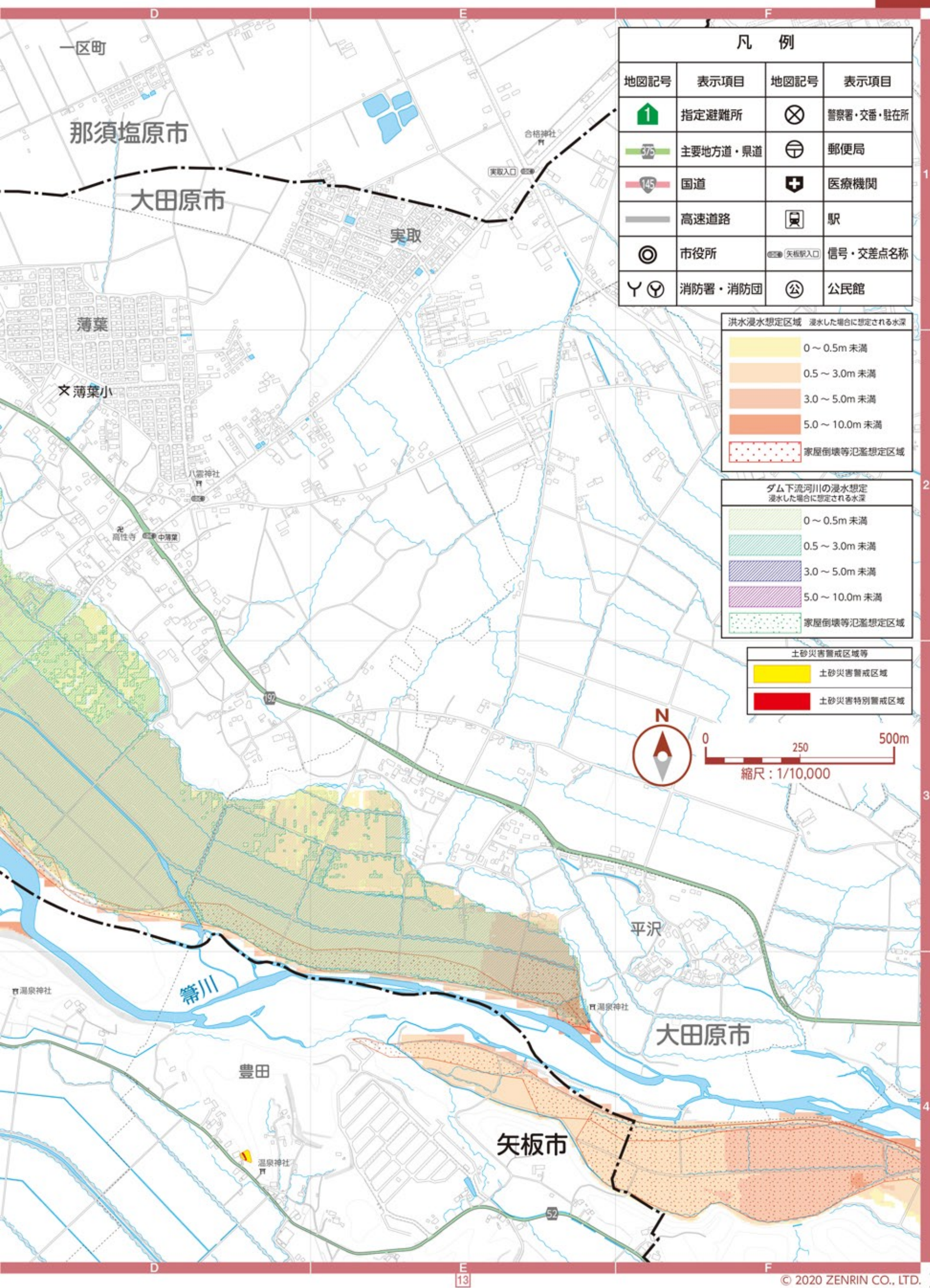


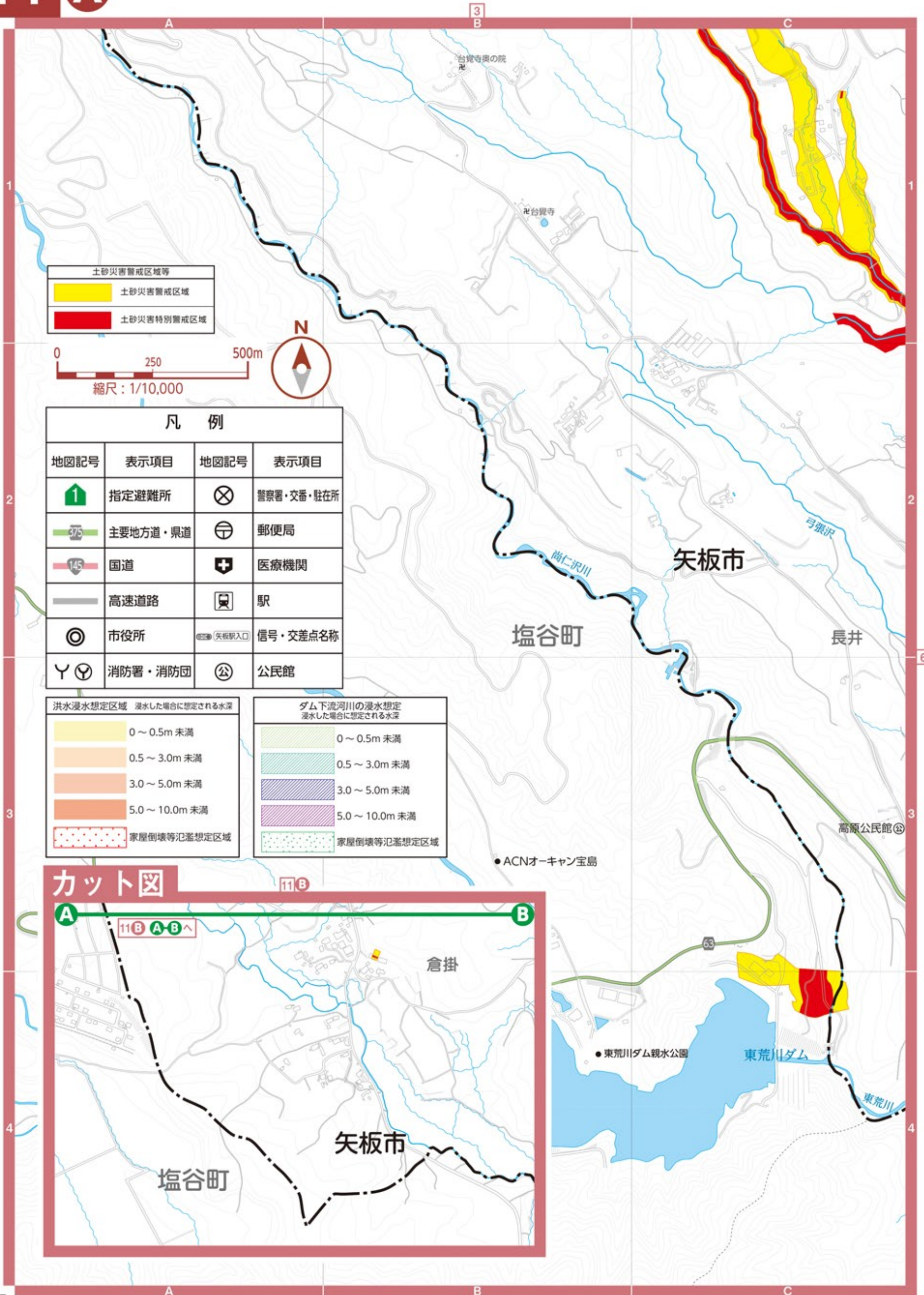


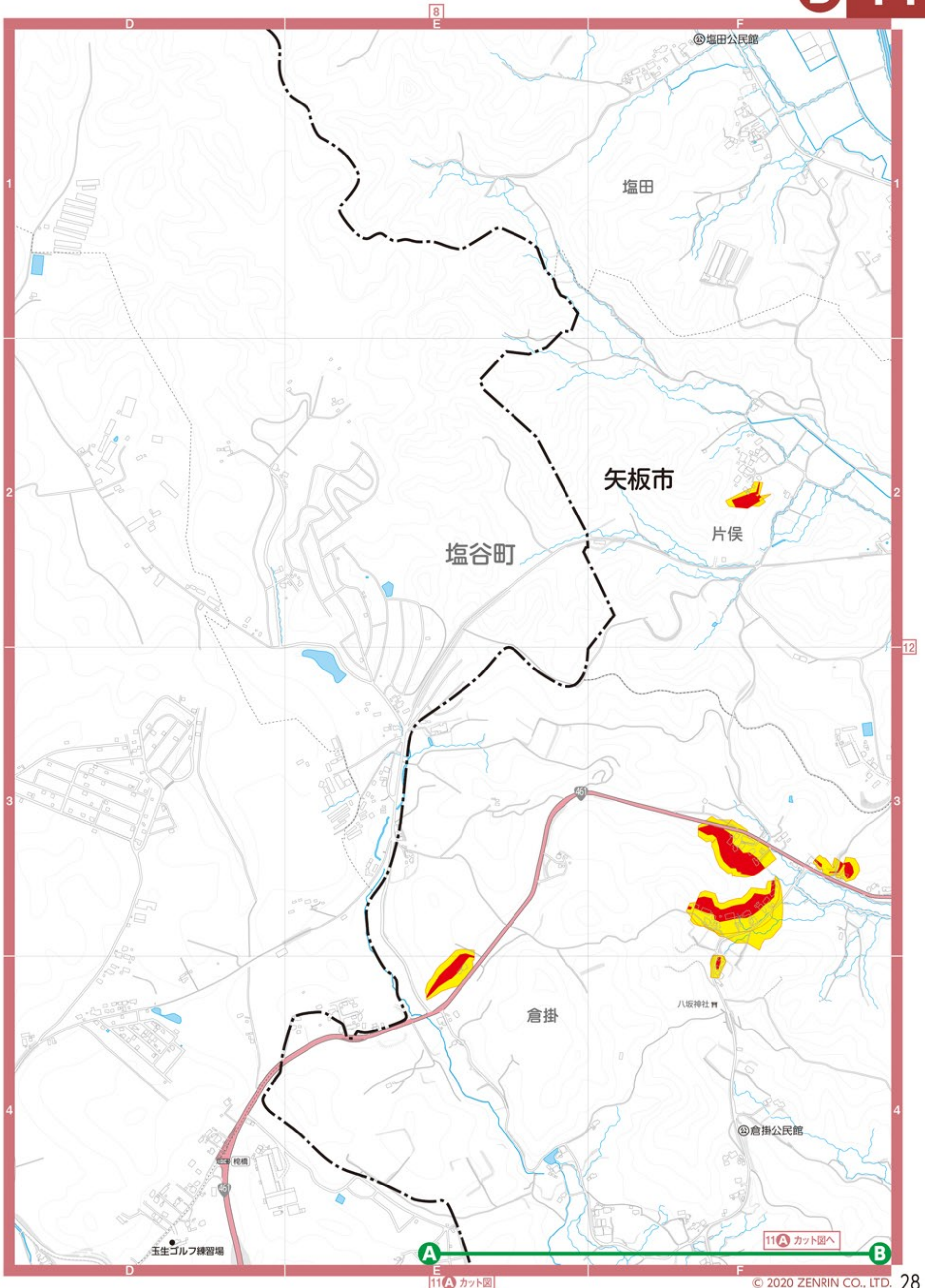


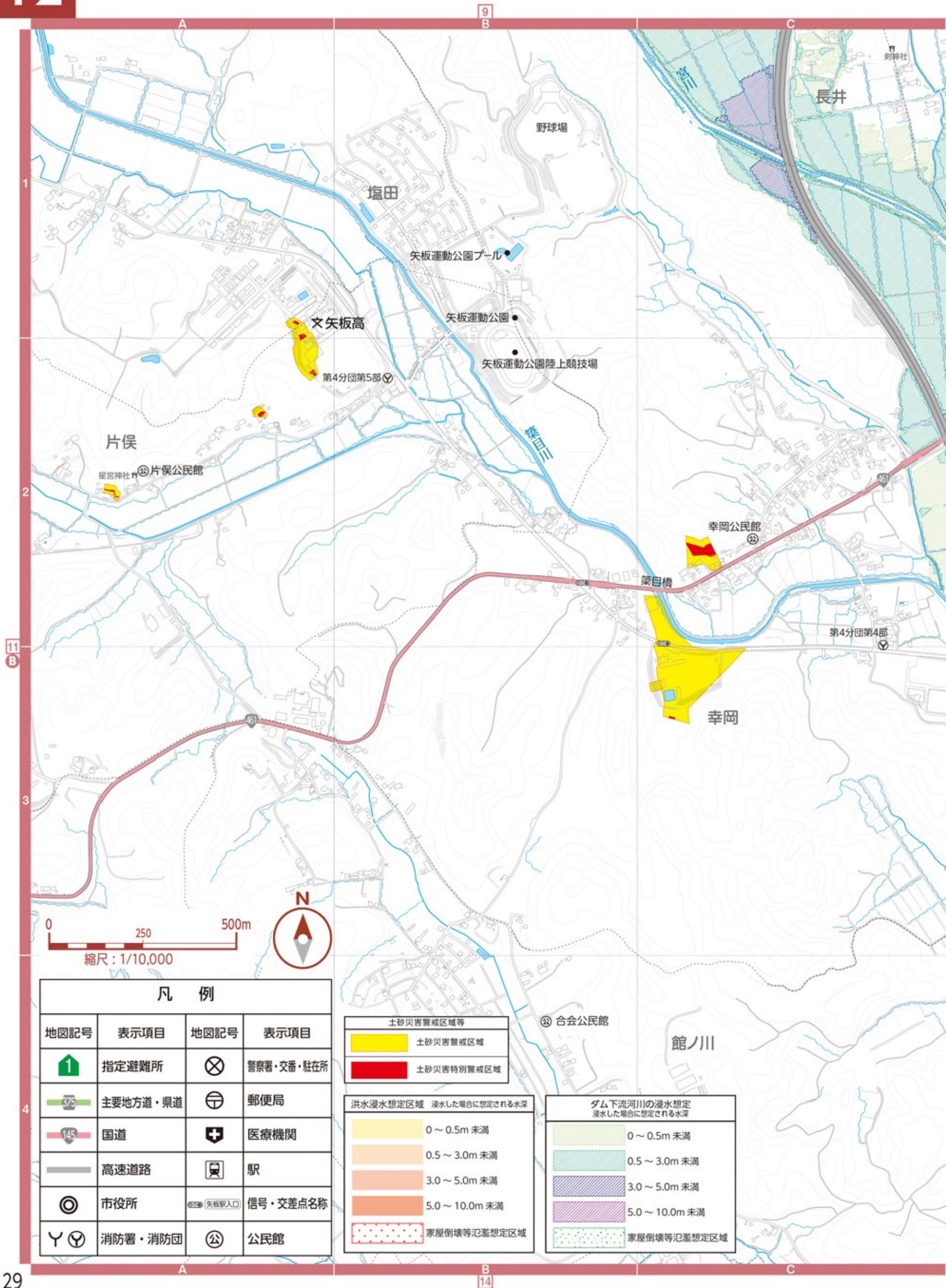


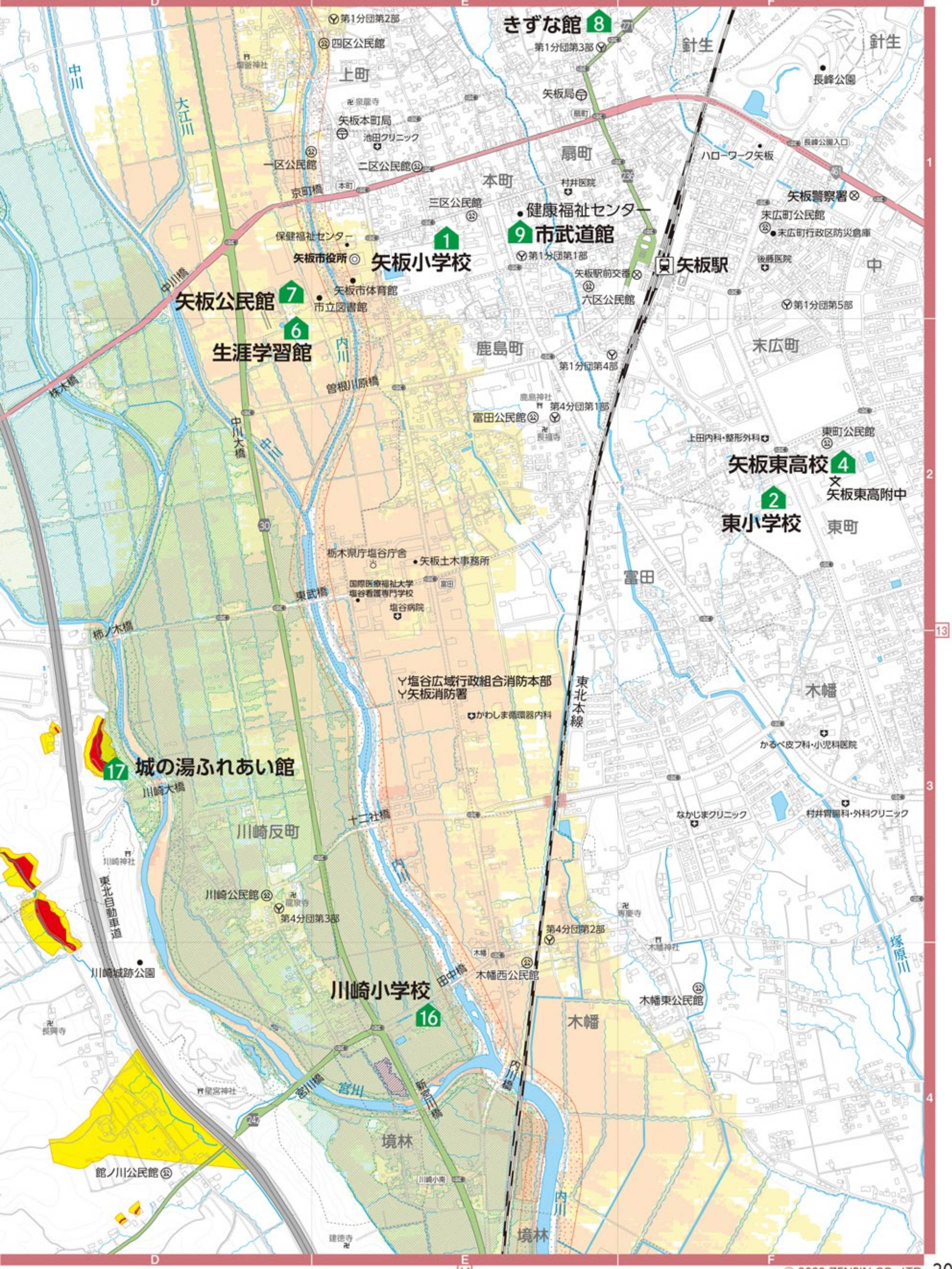


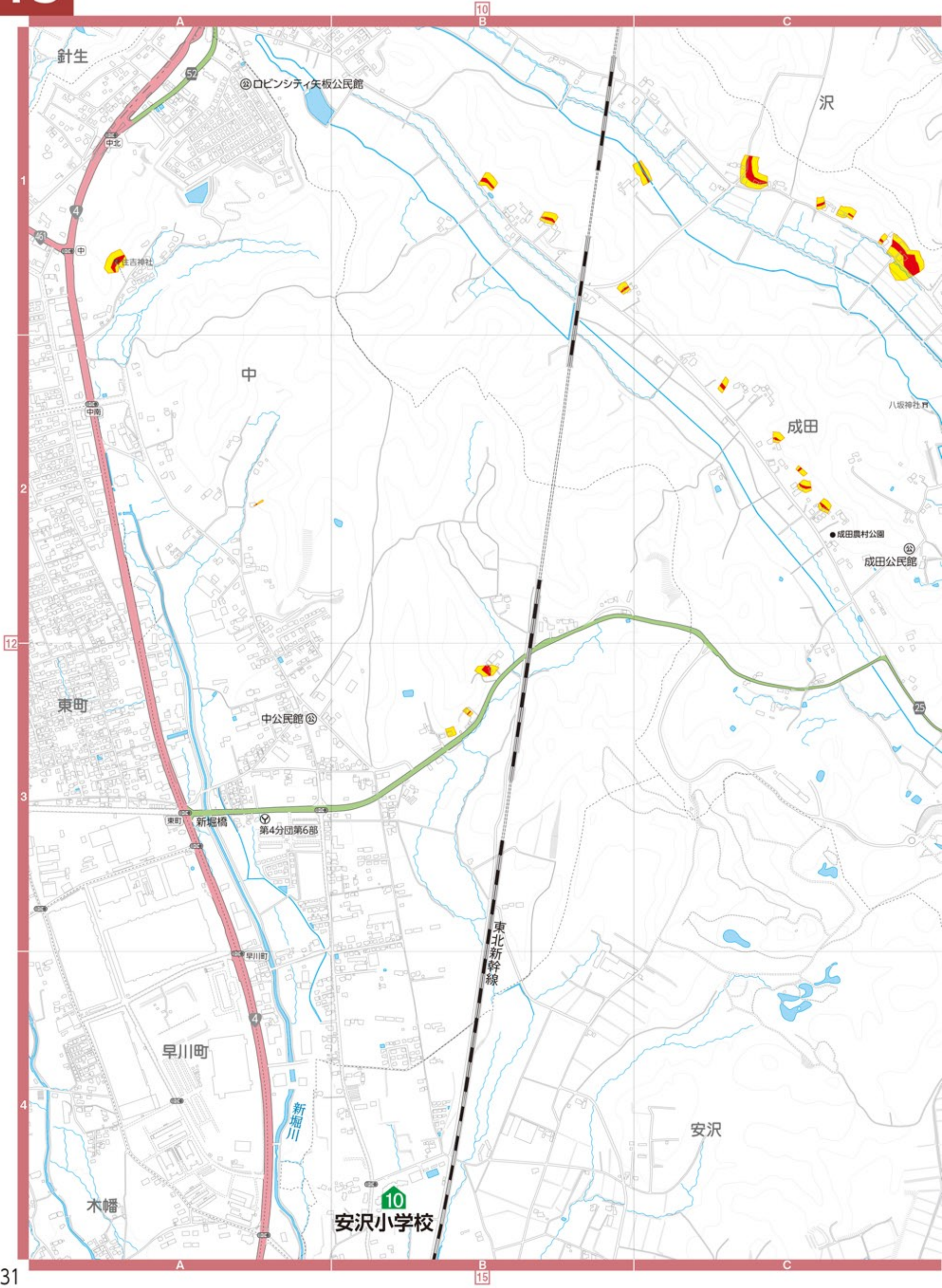




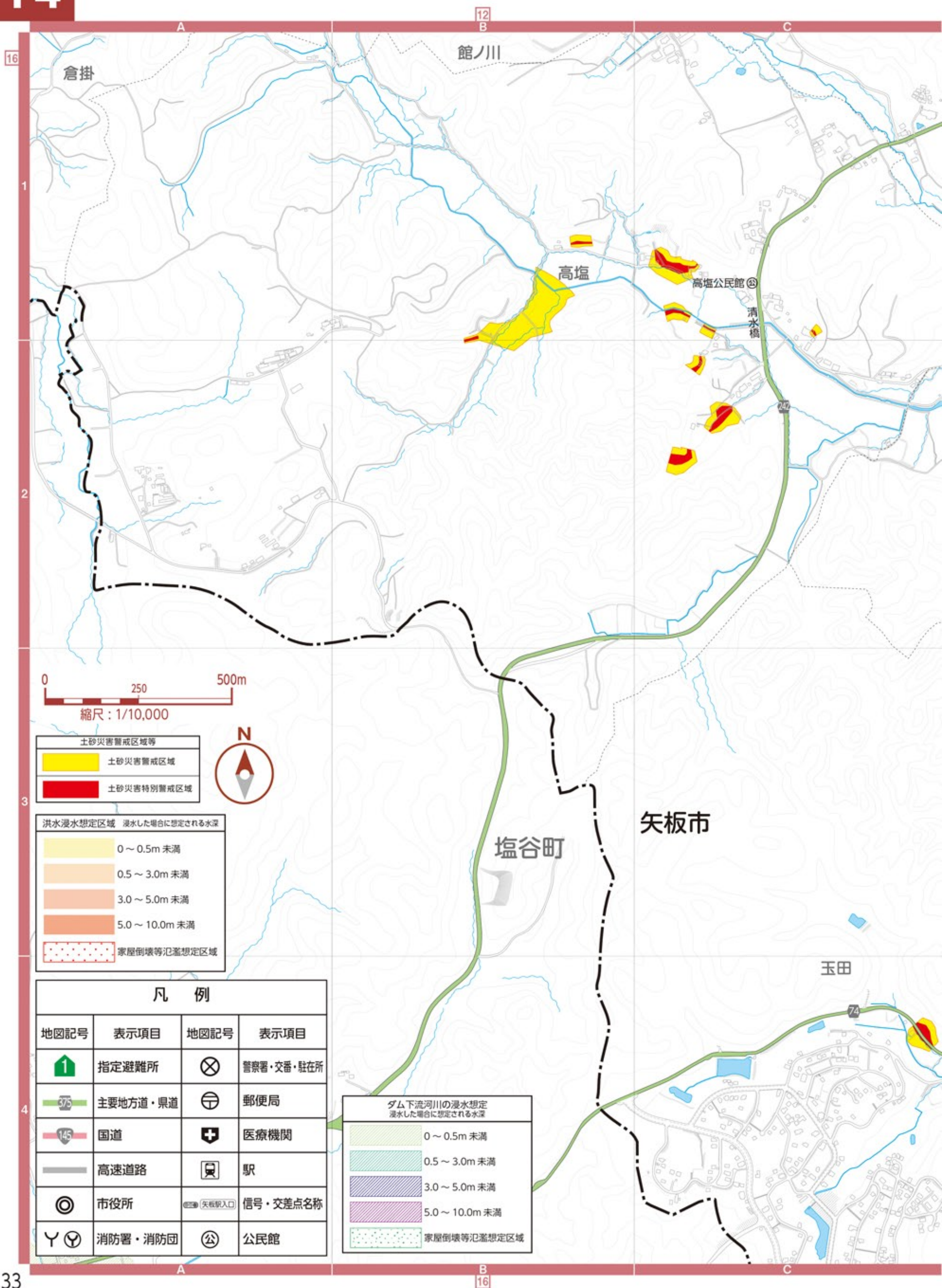


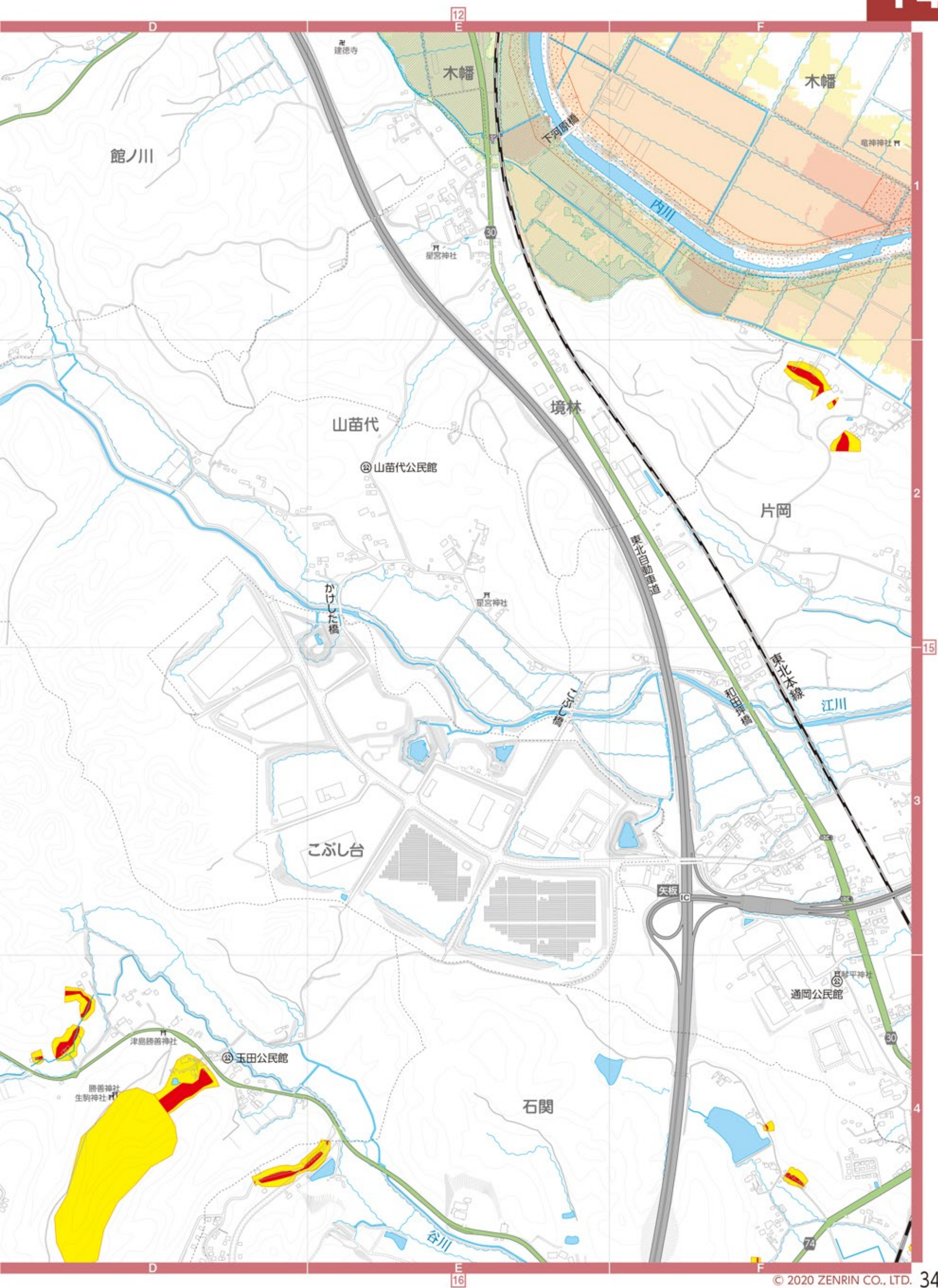


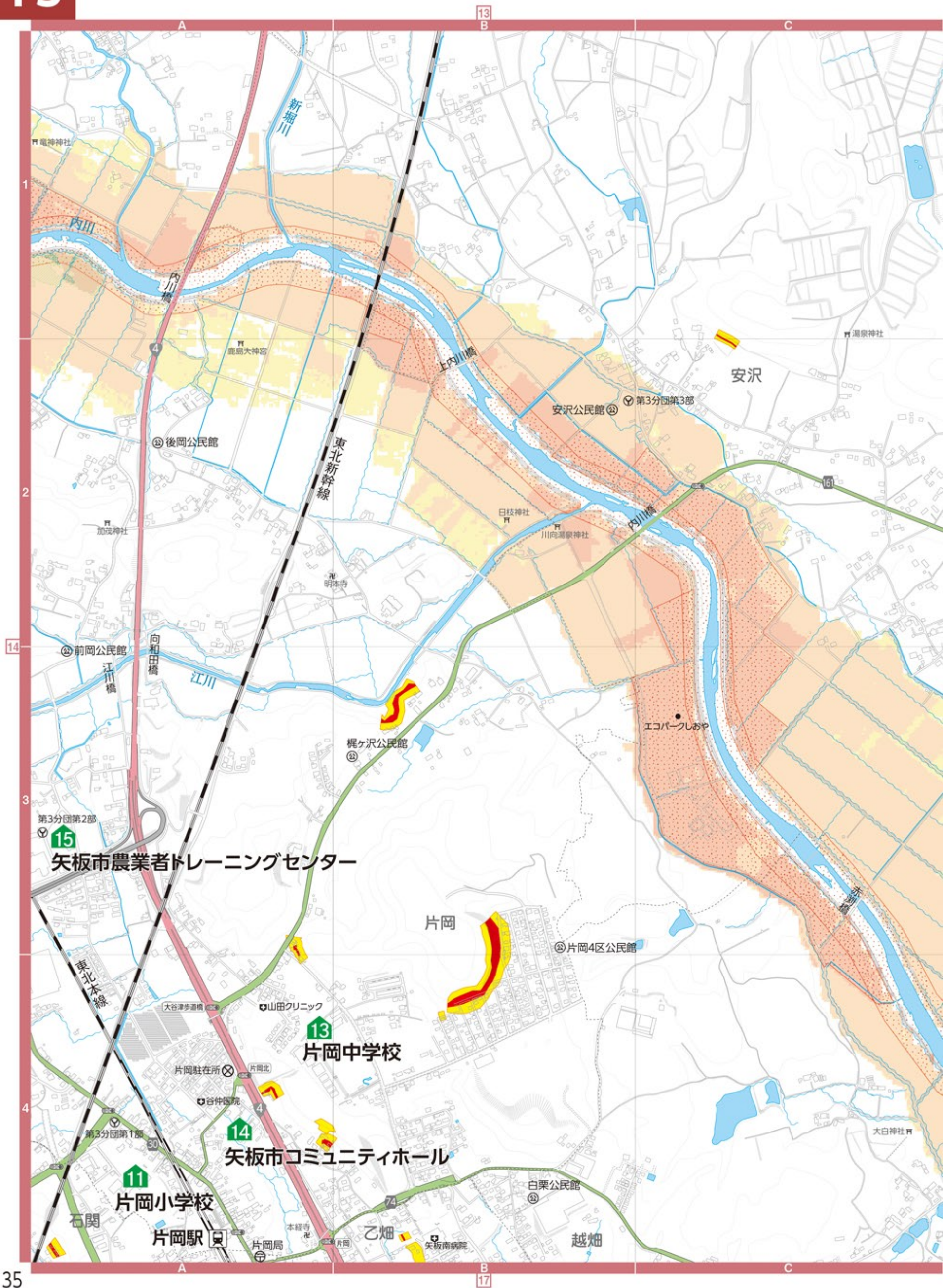


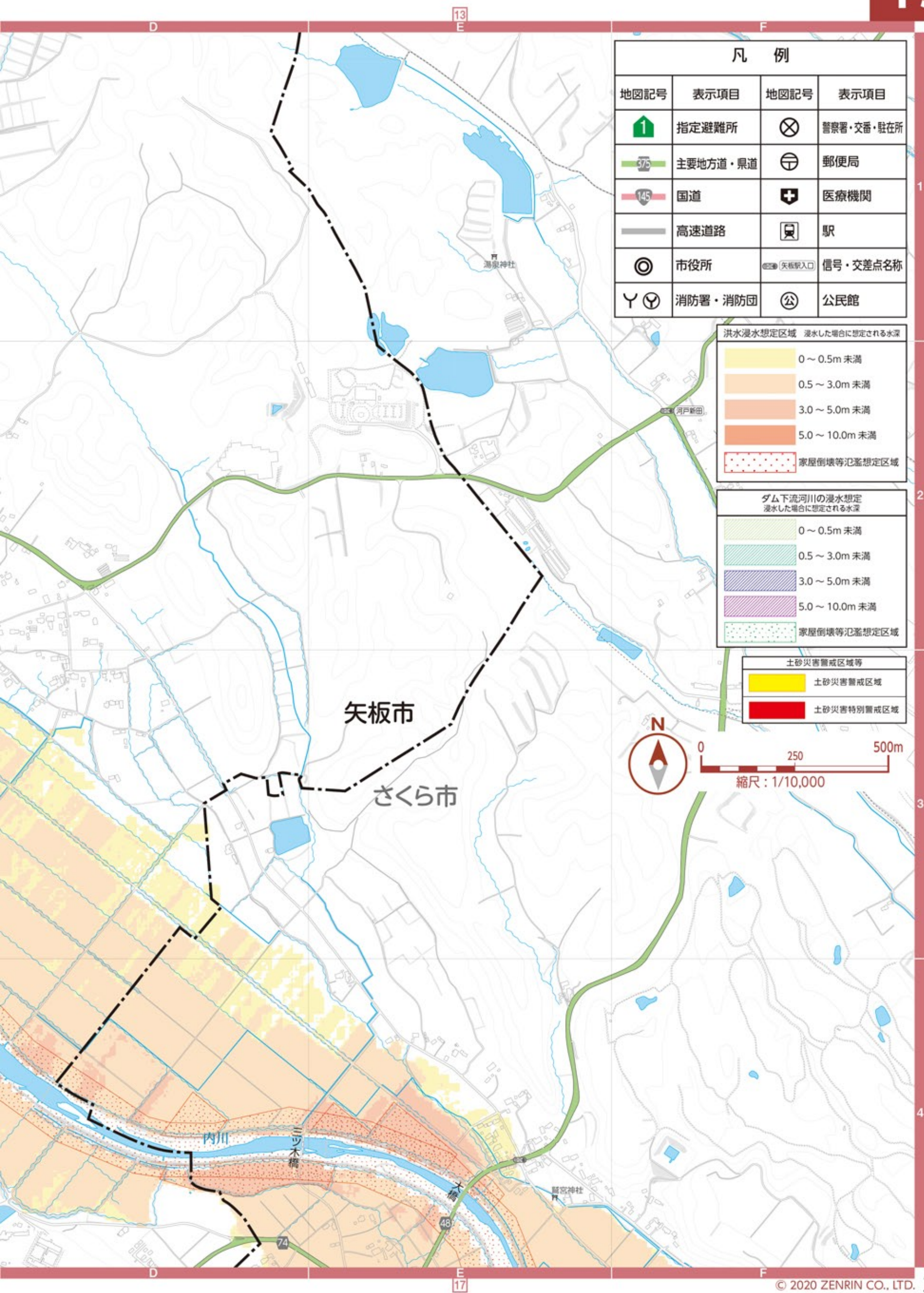


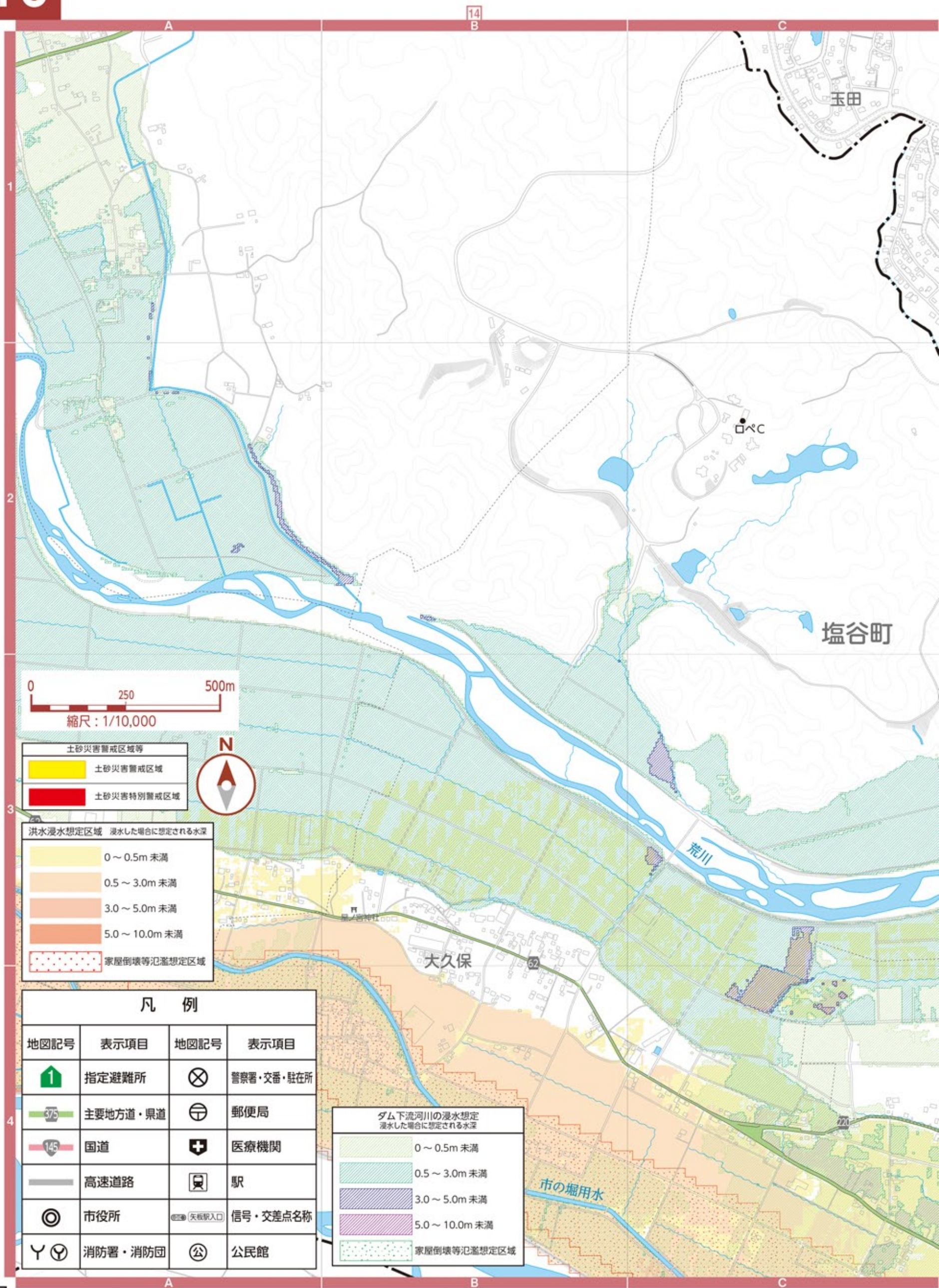


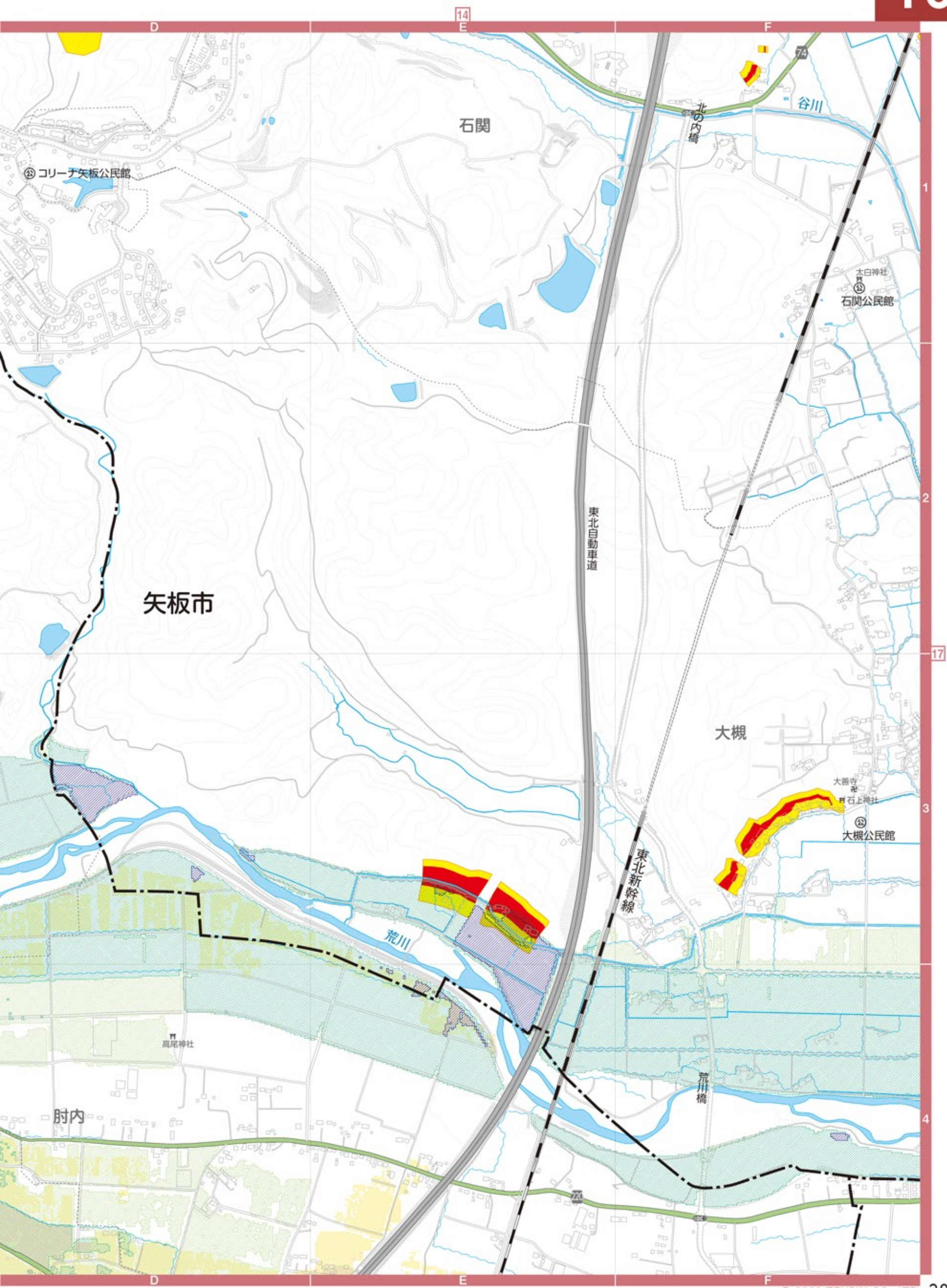


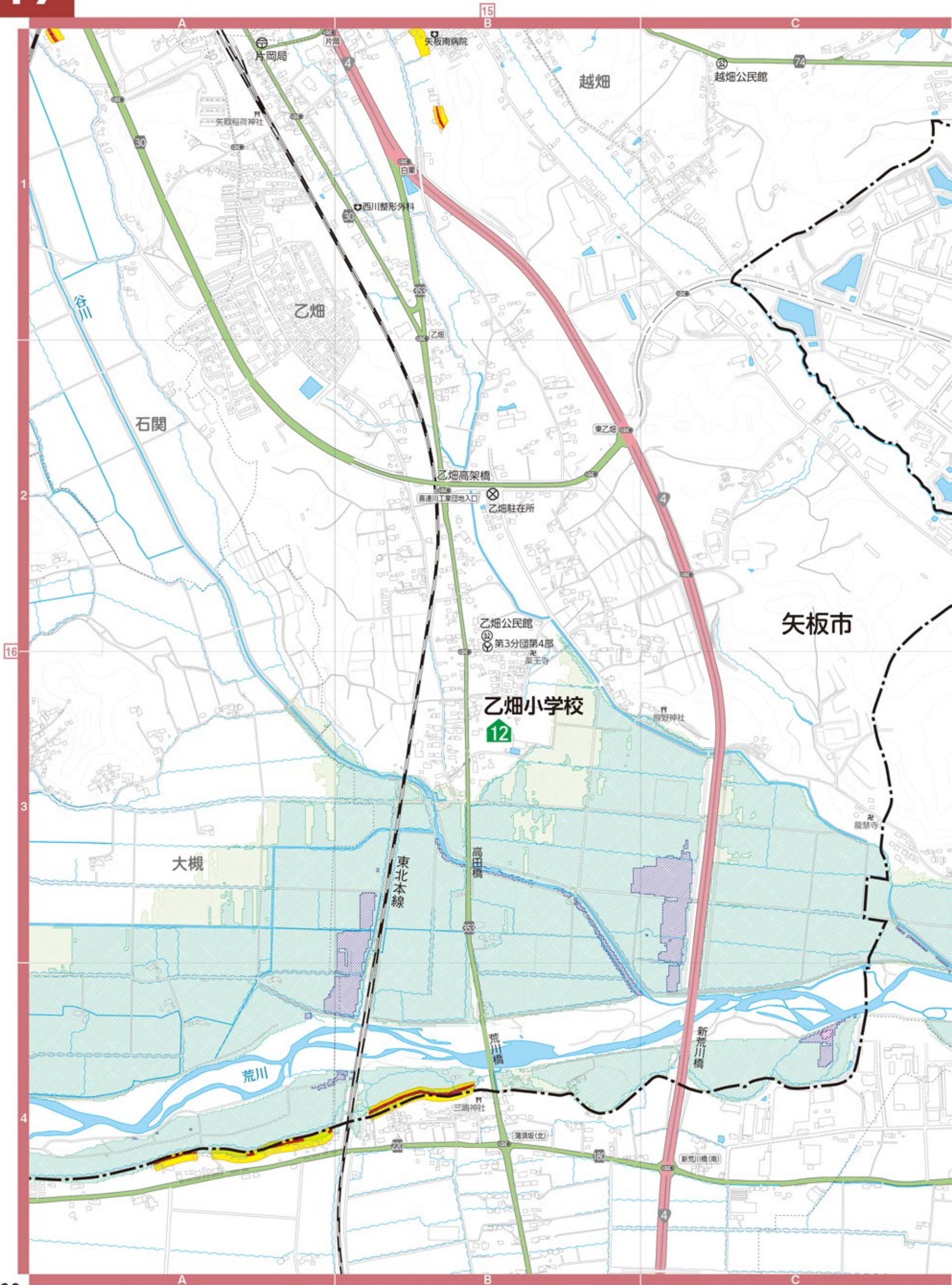


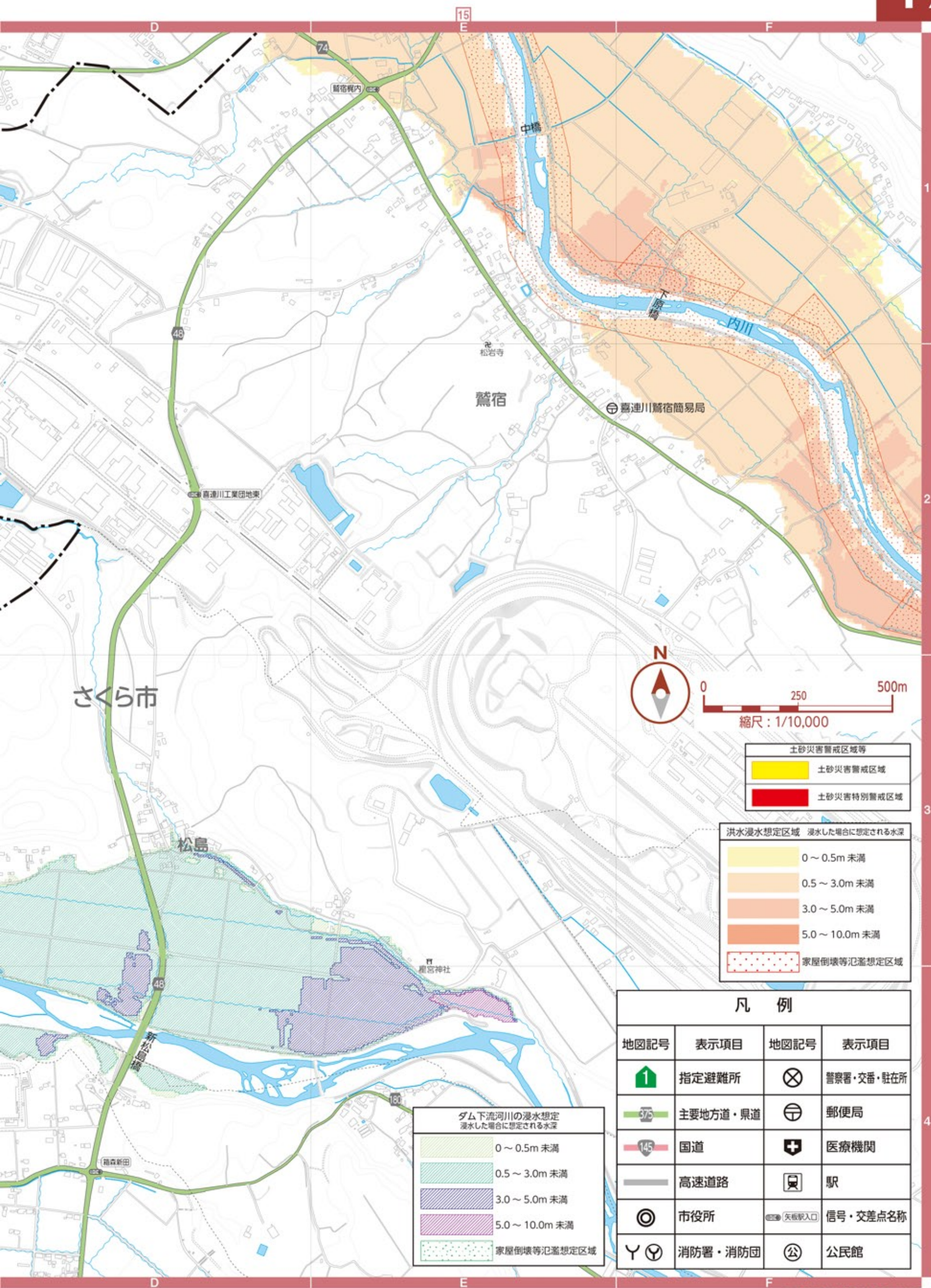












風水害対策

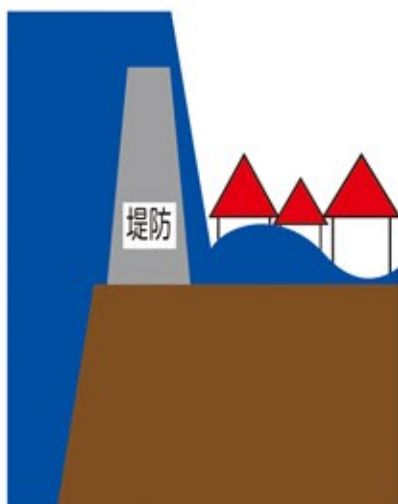
「風水害」とは、強風、大雨、洪水、高潮、波浪などによる自然災害のことです。これらは、毎年のように全国各地に大きな災害をもたらし、認識し、災害時にとるべき行動を平時から身につけておくことが重要です。

洪水災害について

地球温暖化の進行に伴って、日本では猛烈な雨（1時間降水量80mm以上の雨）の年間発生回数が増えています。大雨や短時間に降る強い雨の頻度はさらに増加すると予測されています。

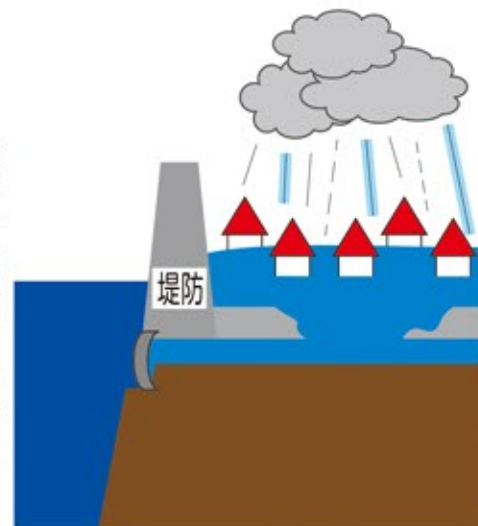
外水氾濫

河川の堤防から水が溢れたり、堤防が決壊して、家屋や田畑が浸水すること。外水氾濫が発生すると、大量の水が流れ込み広い範囲で浸水し、水が引くまでに時間がかかる。



内水氾濫

市街地などで大雨が降ると、側溝や排水路だけでは雨を流しきれなくなることがあり、溢れだした雨水により建物や土地・道路が水に浸かってしまうこと。雨が降り始めてから短時間で浸水することもあるので注意が必要。



避難のながれ

雨が降り始める

? どこへ?

- ・歩いて行ける近くの指定緊急避難場所
- ・親戚、友人の家など、より安全な場所 など

早い段階で避難開始

避難に時間がかかる人は「避難準備・高齢者等避難開始」で避難開始



原則、歩いて避難。

「避難勧告」を聞いたらみんな避難開始

浸水が浅くても流れが速いと危険です。

高架下のアンダーパスなど低いところの浸水に気をつけましょう。



雨の強さと降り方

やや強い雨

10ミリ以上～20ミリ未満
雨の音で話し声が良く聞き取れない。



●ザーザーと降る

強い雨

20ミリ以上～30ミリ未満
ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。



●どしゃ降り

激しい雨

30ミリ以上～50ミリ未満
山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。



●バケツをひっくり返したように降る

非常に激しい雨

50ミリ以上～80ミリ未満
マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。



●滝のように降る

猛烈な雨

80ミリ以上～
雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。



●恐怖を感じる
●息苦しくなるような圧迫感がある

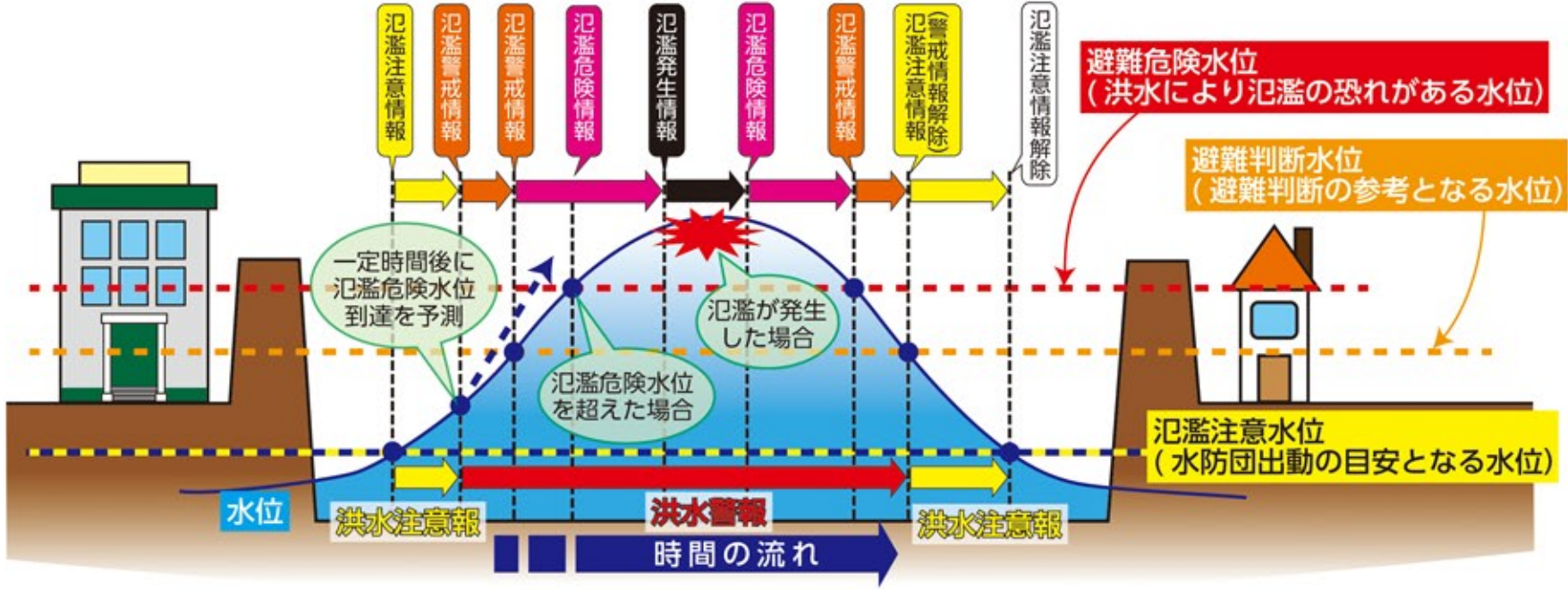
台風

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

風水害対策

たっています。このような自然災害から身を守るためには、様々な自然現象について正しい知識を持ち、自分自身への身近な危険と

外水氾濫については気象庁から注意情報や警戒情報が発表されているので、避難する際の参考にできます。



数10センチの浸水でも水圧でドアは開きません。

水は濁っています。マンホールや側溝のフタが外れて危険です。

災害発生

その場、その時、最も安全な場所へ

逃げ遅れたら・・・どこへ？

- ・自宅の高いところ
- ・すぐ近くにある高い建物 など

同じ建物でも上層階など、浸水から身を守る場所へ避難しましょう。

風の強さと吹き方

10m/s以上～15m/s未満	15m/s以上～20m/s未満	20m/s以上～25m/s未満	25m/s以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物が窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

強風注意報・暴風警報

強風注意報：
平均風速が13m/sと予想される場合

暴風警報：
平均風速が18m/sと予想される場合

大雨注意報

大雨によって被害が起こるおそれがあると予測される場合。

- ・表面雨量指数基準 10
- ・土壌雨量指数基準 102

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合。

- ・表面雨量指数基準 20

記録的短時間大雨情報 1時間に雨量100mm

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

土砂災害について

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周

土砂災害の種類

急傾斜地の崩壊 (がけ崩れ)

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをい



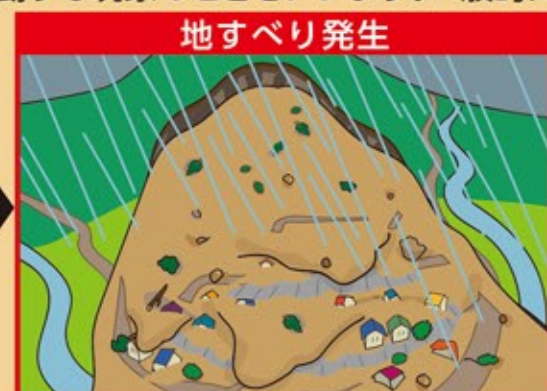
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害危険箇所について

土砂災害防止法に基づき栃木県が計画的に基礎調査を実施し、「土砂災害特別警戒区域」と「土砂災害警戒区域」の指定及び見直しを行っています。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)

建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)

土砂災害のおそれがある区域



急傾斜地の崩壊



土石流



地すべり



土砂災害について

りの人と安全な場所へ避難してください。日ごろから危険箇所、避難場所、避難経路を確認しておくことも重要です。

土砂災害の前ぶれ(前兆現象)として、どんなことが起こるの?

知ろう!

います。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。

がけ崩れの 前兆現象



がけから小石が
パラパラと落ち
てくる。



がけから水が
湧き出ている。



がけに割れ目
がみえる。

れの速さは規模によって異なりますが、時速 20~40km という速度で一瞬のうちに人家や畑などに被害が発生します。

土石流の 前兆現象



川の流水がに
ごり、流木が
混ざりはじ
める。



雨は降り続いて
いるのに川の水
が減る。



山鳴りがする。

地面が大きなかたまりのまま動くため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

地すべりの 前兆現象



沢や井戸の水
がにごる。



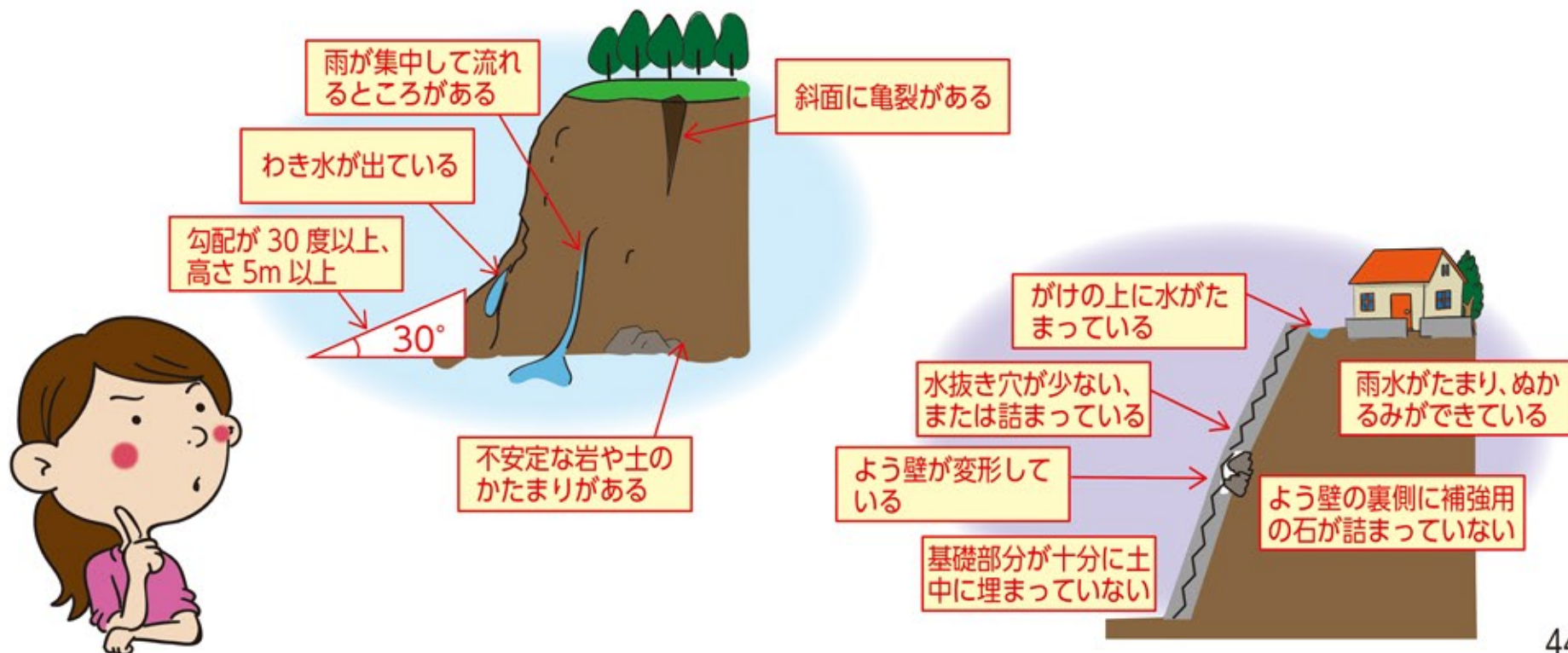
地割れがで
きる。



斜面から水
が噴き出す。

土砂災害の予防策

勾配が30度以上あるがけは、大雨により崩れる危険性が高い場所です。また、がけや盛土の崩落を防ぐためのよう壁も、その構造や築年数の経過によっては崩れる危険性があります。日ごろからチェックしておきましょう。



地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- 身の安全を確保する

揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦の落下・ブロック塀の倒壊・自動販売機等の転倒に注意



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に 声をかけよう

- 要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないかの確認
- ケガ人はいないか

出火防止 初期消火

- 消火器を使う
- 余震に注意
- 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーをおろす・ガスの元栓を閉める



3分

ラジオなどで正しい情報を

- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように
- 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



10分

数時間
3日

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食糧は蓄えているものでまかなう 最低限3日間(推奨7日間)の飲料水と食糧の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集
- 壊れた家に入らない
- 近くの人救出・救護



屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。



集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護する。
- 建物から離れ、安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



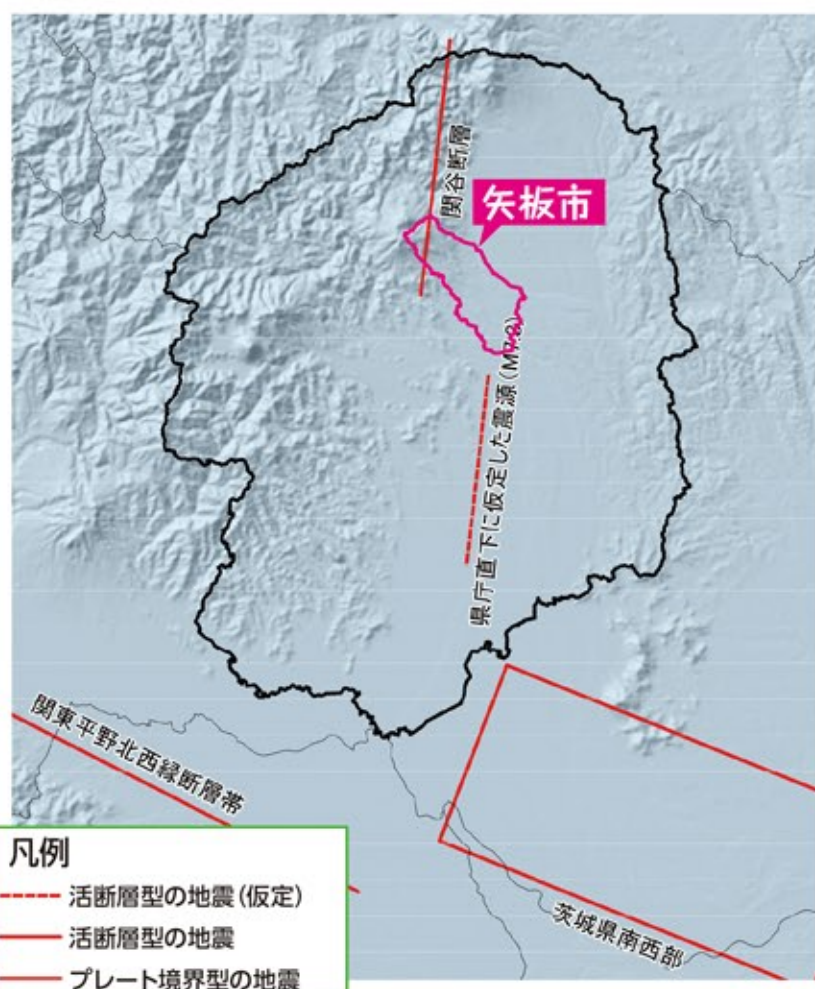
車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

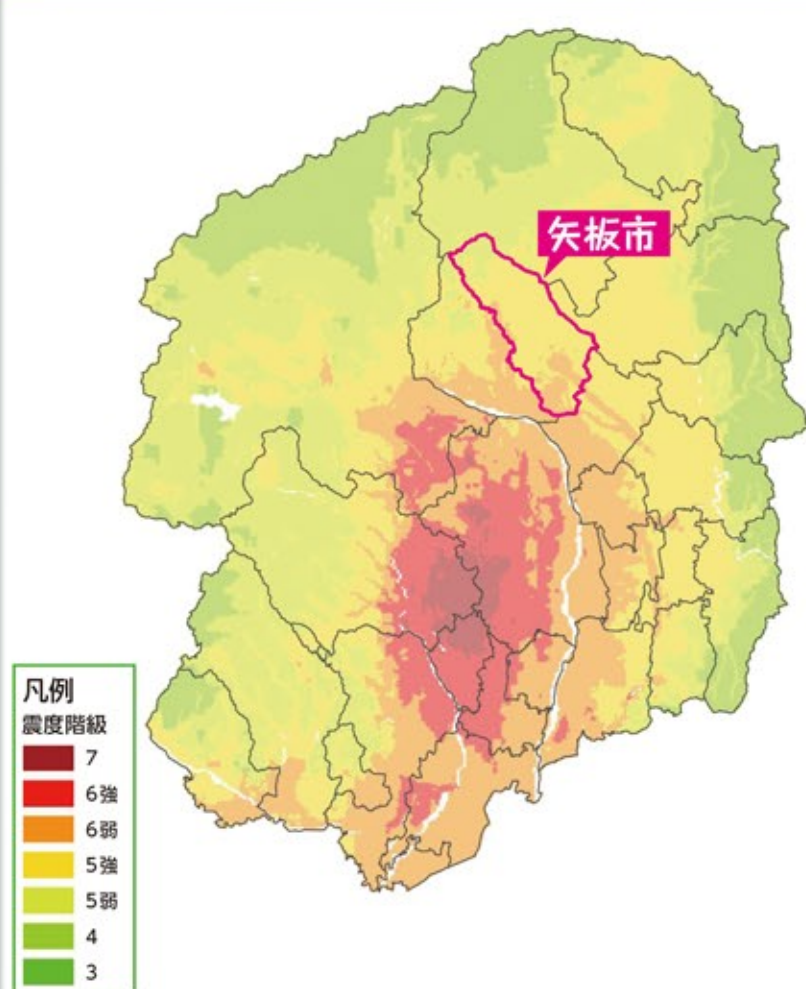
山沿い・谷沿い

- 地震により土砂災害が発生するおそれがあるため、安全な場所へ避難する。

想定震源(断層の上端)の位置



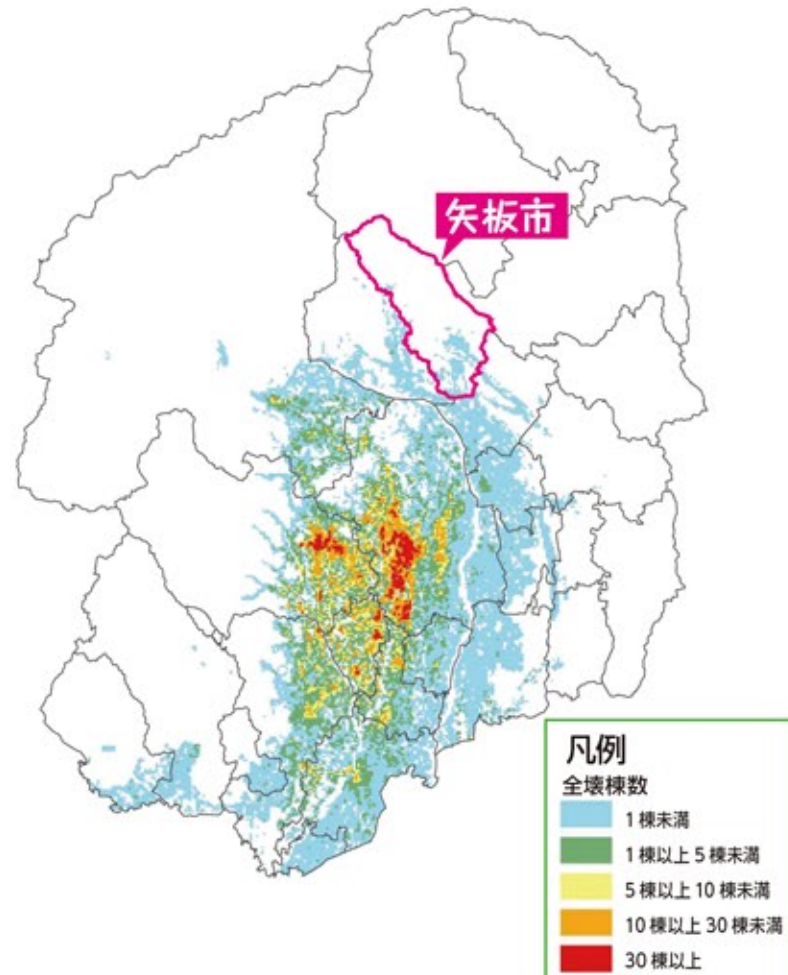
栃木県庁直下に仮定した地震(M7.3)震度分布図



栃木県庁直下に仮定した地震(M7.3)液状化危険度



栃木県庁直下に仮定した地震(M7.3)全壊棟数



大雪対策

大雪災害が発生した場合には公助だけでは対応が困難なことから、**自助・共助での取り組みが非常に重要**になります。
まずは、家庭内や地域で大雪時の対応について話し合い、あらかじめ大雪に備えましょう。

路面凍結に注意

信号交差点

信号交差点のある箇所では、車が発進や停止を繰り返すことによって、圧雪や凍結路面が摩擦熱で解けて、タイヤとの間に水滴ができるため、路面が非常に滑りやすくなる場合があります。

橋梁（橋げた）

橋梁区間ではほかの区間と異なり夜間には橋の下からも熱が奪われるので、路面の温度が低下しやすく、ほかの路面が凍っていないくても橋の上だけは凍結している場合があります。

トンネルなどの出入口

トンネルなどの出入口は日陰になることが多く、局部的に路面が凍結している場合があります。周囲が雪景色の場合には、トンネルの中と外での明るさが極端に異なることで状況が見えにくくなることを踏まえ、トンネル出入口付近での突然の路面変化に備え、走行には注意しましょう。

大雪が降った場合

除雪作業の注意点

雪かきスコップなどの除雪用具を用意しましょう。また、作業中は転倒や屋根雪の落下に注意しましょう。
県・市は、所管する幹線道路を中心に、除雪作業を行います。
市民の皆さんは、**共助の精神に基づき自宅付近の除雪を行うなど通行の確保、孤立・閉じ込め状況の解消に協力してください**。
ただし、個人敷地内も含め、**除雪した雪は事故やケガの元になりますので道路に出さないでください**。

落雪に注意

屋根の雪が解けはじめ、**大きなかたまりになって落下する場合があります大変危険です**。
可能な限り屋根の雪を下ろすか、下に物を置かないようにしたり、通行者に注意を呼び掛ける表示をしましょう。
歩行等通行中は足元に注意するとともに、頭上にも十分注意してください。



備蓄をしましょう

積雪により外出できなくなる場合に備え、水（1人1日3リットルが目安）、食糧、灯油等の備蓄を確認しましょう。特別な非常食に限らず、普段から購入しているものを少し多く買い置きすることで十分です（最低3日分・推奨1週間分）。

外出は控えましょう

積雪時には不要不急の外出は極力控えてください。自動車等により雪が踏み固められると除雪が遅れ、交通障害の原因となります。

地域で助け合おう

近所に1人暮らしの高齢者や障がいのある方がいる場合は、地域で協力して助け合いましょう。

除雪作業時のお願い

市では積雪時に、市が委託した業者が主要幹線道路を中心に除雪を行います。
除雪作業の際には、ご理解とご協力をお願いします。

- ・路上駐車はしないでください。 ・除雪車にご注意ください。
- ・除雪作業により間口にたまった雪の除去や自宅内の雪を道路に出さないようにご協力をお願いします。
- ・通学路など歩道の除雪について、地元のご協力をお願いします。

竜巻対策

竜巻に関する情報

発達した積乱雲からは、竜巻、ダウンバーストといった、激しい突風や雷をもたらす現象が発生します。竜巻は、積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、漏斗（ろうと）状または柱状の雲を伴います。直径は数十～数百メートルで、数キロメートルに渡って移動し、被害地域は帯状になる特徴があります。

竜巻注意情報

<http://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>

（気象庁）



「竜巻」が間近に迫ったら… いろいろな物が猛スピードで飛んできます！

屋内では

- ・窓から離れる。
- ・窓やカーテンを閉める。
- ・丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。
- ・家の1階の窓の少ない部屋に移動する。

屋外では

- ・頑丈な建造物の物陰に入って、身を小さくする。
- ・物置や車庫、プレハブの中には入らない。
- ・シャッターを閉める。
- ・電柱や太い木には近づかない。

初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1

早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2

早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけてと石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すの方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

浴室

浴室からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3

早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけ上に引き抜く。



ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正面から立ち向かわないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



火災予防が一番!!

火災警報器の設置義務化

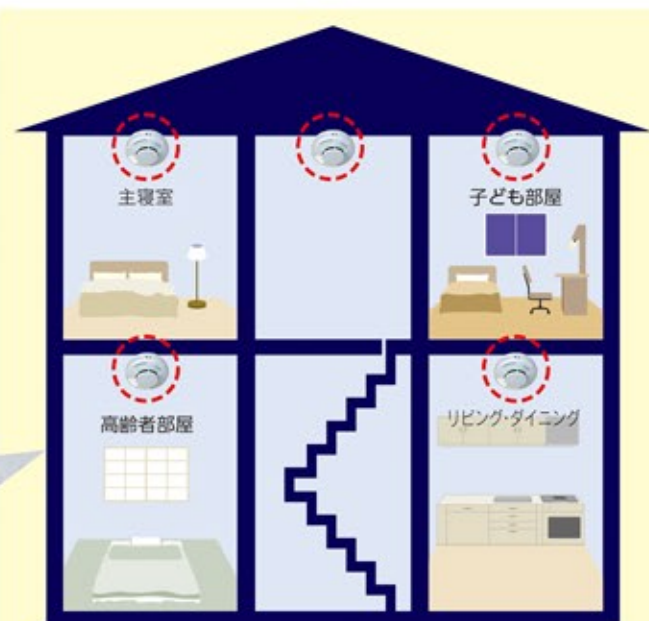
消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

火災警報器の設置場所

- 寝 室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階 段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台 所…台所への設置も必要です。

注意：住宅用火災警報器は電池式のものが主流です。電池の寿命は5年から10年とされているので、早めの交換をお願いします。



住宅内取付位置図

家の中外の安全対策

●家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる 出入口や通路にもものを置かない

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。



●寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。枕元には靴、懐中電灯、笛などを入れた袋を用意する。倒れた家具が妨げとなって逃げ遅れる可能性があるので倒れそうな家具は置かない。



家の転倒落下を防ぐポイント

タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



照明

天井の照明器具は、天井に直に取り付けるタイプ（シーリングライト）の器具に交換する。



冷蔵庫

ベルトなどで背面と壁を固定する。背面上部のベルト取り付け部分と壁とをベルトで連結すると効果が高くなる。



テレビ

できるだけ低い位置に固定しておく。家具の上はさける。



家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

屋根

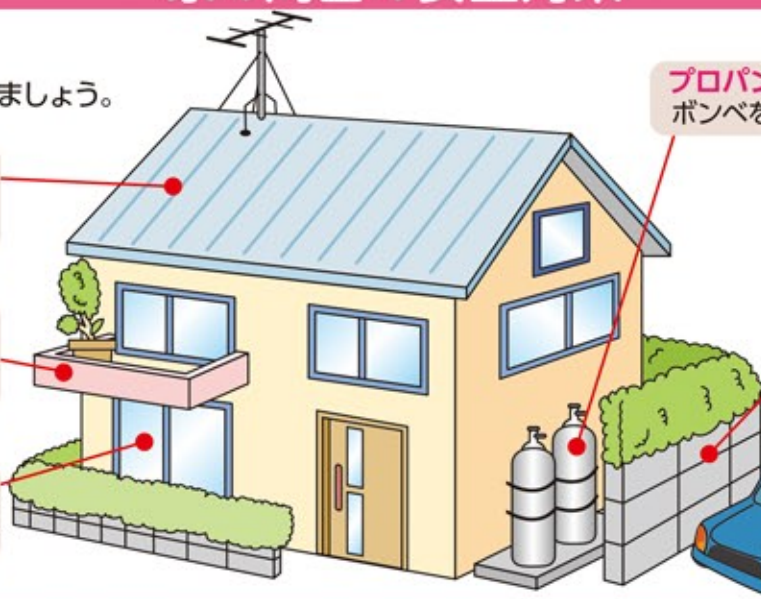
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。カーテンは防災加工のものにする。



プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

車

緊急脱出ツール、ジャッキ、テント、寝袋、ビニールシートなどを用意する。

家の耐震診断をしよう

あなたの家は、大地震の揺れに耐えられる家ですか？以下のチェックポイントにしたがって、家の耐震診断をしてみましょう。1つでも気になる項目があれば、専門家の診断を受けてください。

- ☐ 昭和56年6月以前に建てられた家ですか？
- ☐ 過去の地震でダメージを受けたことがありますか？
- ☐ 埋立地、低湿地造成で盛り土をした場所、液状化の可能性がある土地に建っていませんか？
- ☐ 木造住宅の場合、基礎は鉄筋コンクリートで建物土台としっかり一体になっていますか？
- ☐ 凸凹の多い複雑な形状になっていたり、大きな吹き抜けがありませんか？

地震に弱い住宅を耐震化するには、建替えか耐震改修をする必要があります。また、耐震改修を行う場合は、事前に耐震診断を行いましょう。

- ①耐震診断・・・建築士に依頼し、住宅の図面と現地を調査して、どこが弱い部分なのかを確認します。
- ②耐震改修設計・・・耐震診断で住宅の弱い部分を把握したら、補強工事を行うための設計を行います。基礎や壁の補強をしたり、屋根を軽い材料に取替えるなど建築士から設計内容の説明を受けましょう。また、住宅の耐震性を強くする補強工事の他に、自分の身だけを守る「耐震シェルター」「防災ベッド」を設置するだけの簡易な改修もあります。
- ③耐震補強工事・・・建設会社や工務店に依頼して、建築士が行った設計を基に工事を行います。設計を行った建築士も工事監理者として工事に携わってもらい、設計書のとおり工事が行われているか確認してもらいましょう。

非常時持出品・備蓄品の準備

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例)

携帯ラジオ



- ☐ ラジオ
- ☐ 電池(多めに用意)

救急医療品



- ☐ 常備薬
- ☐ 鎮痛剤
- ☐ 絆創膏
- ☐ 傷薬
- ☐ 胃腸薬
- ☐ 包帯
- ☐ 風邪薬

非常食品

火を通さなくて食べられるもの、食器など



- ☐ 飲料水
- ☐ 乾パン
- ☐ 缶詰
- ☐ アルファ米

ライト類



- ☐ LEDランタン(できれば3つ)
- ☐ LEDヘッドライト(できれば1人1つ)
- ☐ 電池(多めに用意)

その他



- ☐ 衣類(下着・上着など)
- ☐ 生理用品
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ ヘルメット
- ☐ レインコート
- ☐ タオル
- ☐ ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
- ☐ 粉ミルク
- ☐ 液体ミルク
- ☐ 紙おむつ
- ☐ 離乳食
- ☐ ライター
- ☐ 缶切り
- ☐ 水筒
- ☐ 割りばし
- ☐ 入れ歯や補聴器
- ☐ 紙皿・紙コップ
- ☐ 携帯トイレ
- ☐ 新聞紙
- ☐ ポリ袋
- ☐ ハザードマップ(本書)
- ☐ リュックサック
- ☐ お薬手帳

非常時備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低限3日、推奨7日)を生活できるようにしましょう。

飲料水



- ☐ 飲料水(1人1日3リットルを目安に)
- ☐ 貯水したタンクなど

非常食品



- ☐ お米(アルファ米も便利)
- ☐ 缶詰・レトルト食品
- ☐ 梅干し・調味料など
- ☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- ☐ 卓上コンロ
- ☐ ガスボンベ
- ☐ 固形燃料

その他



- ☐ 生活用水(風呂などに貯水)
- ☐ 毛布・寝袋・洗面用具など
- ☐ 調理器具(なべ・やかんなど)
- ☐ バケツ・各種アウトドア用品など
- ☐ 歯みがきセット・ひげそりなど

避難するときはこんな恰好で

ヘルメット(防災ずきん)をかぶる

非常時持出品はリュックサックに入れて背負う

軍手や手袋をはめる

長そで・長ズボン着用。燃えにくい木綿製品が良い。

靴は底の厚い、はき慣れたものをはく

帰宅困難に備えよう

昼間、人口が多い都市部で大地震が発生した場合、交通機関の途絶によって自宅に戻れない「帰宅困難者」になる可能性があります。勤務先や学校から徒歩で帰宅することを想定し、日ごろから準備をしておきましょう。

防災グッズを用意する

携帯ラジオ、ヘルメット(帽子)、スニーカー、携帯食料、懐中電灯、革手袋、地図、寒暖対策用品など

帰宅地図を用意する

災害の状況によっては、道路が通行不能になる場合もあるので、複数の帰宅ルートを決めておくとういでしょう。

家族との連絡方法を決めておく

地震が発生すると、家族や親類とは簡単に連絡をとることができません。事前に以下のような項目に関して、家族全員で確認しておくことが重要です。

- ☐ 災害時の安否確認の方法
- ☐ 家族の集合場所
- ☐ 徒歩帰宅する場合のルート



わが家の「防災・緊急情報」メモ

わが家の連絡先 矢板市の市外局番…0287

氏名	電話番号・メールアドレス	会社・学校	血液型	持病・アレルギー	常備薬	かかりつけ医療機関

【メモ】※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。

家族で決めた集合場所

家族で決めた連絡方法

矢板市役所	43-1111	矢板警察署	43-0110
矢板土木事務所	44-2185	矢板駅前交番	44-0780
上下水道事務所	44-1511	片岡駐在所	48-0110
矢板市水処理センター	48-2918	乙畑駐在所	48-1535
国際医療福祉大学塩谷病院	44-1155	泉駐在所	43-2144
矢板消防署	44-2511	沢駐在所	44-0781
エコパークしおや	46-5711		

あなたの無事を伝えましょう

体験利用日:「毎月1日及び15日」、「正月三日」、「防災週間」、「防災とボランティア週間」

171 災害用伝言 ダイヤル

電話を利用して被災地の方の安全情報を確認する「声の伝言板」です。

171
にダイヤル

録音は 1

再生は 2

被災地の方の固定電話及び携帯電話・PHS・IP電話の番号をダイヤルしてください。なお、固定電話の場合には市外局番から入力して頂く必要があります。

0 - -

ガイダンス
に従い、
録音(再生)

災害用伝言板(パソコン・スマホ用)

web 171 災害用伝言板

インターネットを利用して被災地の方の安全情報を確認する「web伝言板」です。

<https://www.web171.jp>へ

アクセス
又は「web171」で検索



伝言を登録する
被災地の方などの
電話番号を入力

説明に従い、
登録/確認

※確認時に他社の伝言板に伝言がある場合はリンクが表示されます。

災害用伝言板(携帯電話用)

登録
方法

確認
方法

・iMenu
・EZトップメニュー
・Yahoo!ケータイに
表示される
「災害用伝言板」
を選択

「登録」
を選択

「確認」
を選択

「無事です」などの状態を
選択し、100文字以内のコ
メントを入力する。

確認したい人の携帯電話番
号を入力する。

「登録」を
押して完了

「検索」を
押して確認

NTTドコモ

<http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>



au KDDI

<http://dengon.ezweb.ne.jp>



ソフトバンク

<http://dengon.softbank.ne.jp>



問い合わせ: 矢板市役所 暮らし安全環境課

TEL: 0287-43-6755

令和2年3月版